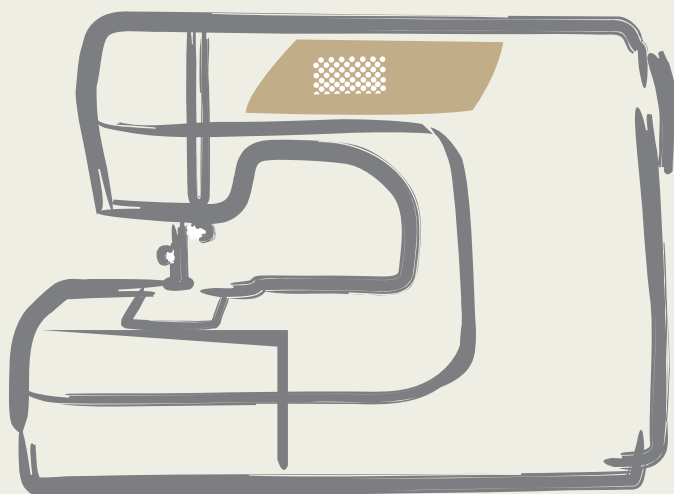


ご使用のしおり

《取扱説明書》



JANOME




安全上のご注意







- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.







危害・損害の程度を表わす表示









 警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
--	---

本文中の図記号の意味

	△ 記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⊘ 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

	警告 感電・火災の原因になります。
	必ず実行 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。
	必ず電源プラグを抜く 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき
	必ず実行 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
	禁止 ストープ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～35℃です。
	禁止 スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。

	注意 感電・火災・けがの原因になります。
	分解禁止 お客様自身での分解はしないでください。
	接触禁止 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
	禁止 めい中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。
	禁止 フットコントローラーの上に物をのせないでください。
	禁止 曲がった針や、先つぶれた針はご使用にならないでください。

	注意 感電・火災・けがの原因になります。
	禁止 ミシンの通風口はふさがないようにしてください。 また、プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまるないようにしてください
	注意 お子様がお使用になるときや、お子様の近くでご使用される場合は、特に安全に注意してください。
	必ず実行 針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
	必ず実行 以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
	必ず実行 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
	必ず電源プラグを抜く 以下のことをするときには、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき
	必ず電源プラグを抜く ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

◎目次

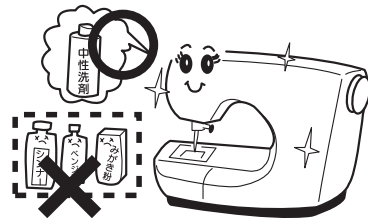
◎お取り扱いについてのお願い	2	●ぬい目のあらさをかえるとき	23
◎各部のなまえ	3	●針位置をかえるとき	23
◎補助テーブル	4	●直線状のぬい目	24
◎標準付属品と収納場所	5	●ジグザグぬい	25
◎基本操作	6 ~ 20	★ぬい目の幅・ぬい目のあらさをかえるとき	25
●電源のつなぎ方	6	●たち目かがり	26 ~ 27
★スタート/ストップボタン使用のとき	6	●トリコットぬい	27
★フットコントローラー使用のとき	6	●ニットステッチ	28
●スタート/ストップボタン	7	●ボタンホール	29 ~ 32
●速さの調節のし方	7	★ボタンホールの種類	29
★スピードコントロールつまみ	7	★ボタンホール 50(スクエア)のぬい	29 ~ 31
★フットコントローラー	7	★ボタンホール重ねぬい	31
●操作ボタンの主なはたらき	8 ~ 9	★ぬい目の幅・ぬい目のあらさをかえるとき	32
●送り歯のさげ方	10	★ボタンホール 51、55 のぬい	32
●押さえの取りかえ方	10	●芯入りボタンホール	33
●押さえホルダーの外し方、付け方	11	●ニットボタンホール	34
●押さえ上げ	11	●たまぶちボタンホール	35 ~ 36
●糸調子の合わせ方	12	●ボタン付け	37
★自動糸調子	12	●ファスナー付け	38 ~ 39
★マニュアル糸調子	12	●ダーニング(つくろいぬい)	40
●針の取りかえ方	13	●かんぬき止めぬい	41
●布に適した糸や針を選ぶ目安	13	●まつりぬい	42
●下糸の準備をしましょう	14 ~ 16	◎応用ぬい	43 ~ 51
★ボビンを取り出します	14	●シェルタック	43
★糸こまをセットします	14	●スカラップ	43
★ボビンに糸を巻きます	15	●アップリケ	44
★ボビンを内がまにセットします	16	●フリンジぬい	45
●上糸の準備をしましょう	17 ~ 19	●サテン模様ぬい	46
★上糸のかけ方	17	●飾りぬい	46
★糸通しの使い方	18	●パッチワーク	47
★下糸を引きあげます	19	★針板角度目盛りの利用	47
●表示画面の説明	20	★地ぬい	47
●模様の選び方	20	★パッチワーク	47
◎実用ぬい	21 ~ 42	●ピンタック	48
●直線ぬい	21	●ファゴティング	48
★ぬい始め	21	●ワンポイント(とじぬい)	49
★厚手の布端のぬい始め	21	●スティップリングステッチ	49
★ぬい方向の変更	21	●スモッキング	50
★ぬい終わり	22	●止めぬいボタンを使った飾りぬい	50
●針板ガイドラインの利用	22	●アイレット	51

- ◎ミシンのお手入れ.....52
- かまと送り歯の掃除.....52
- 内がまと針板の組み付け.....52
- ◎こんな表示が出た場合.....53
- 表示画面の対処方法.....53
- ブザー音の種類.....53
- ◎ミシンの調子が悪いときの直し方... 54 ~ 55

◎お取り扱いについてのお願い

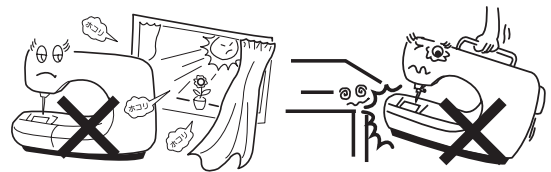
◇ご使用前に

- ① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



◇いつまでもご愛用いただくために

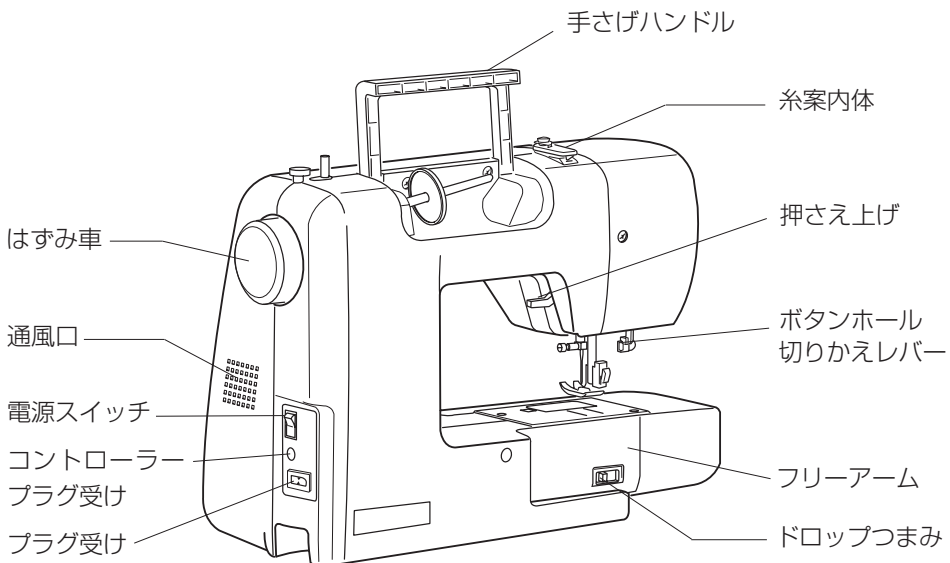
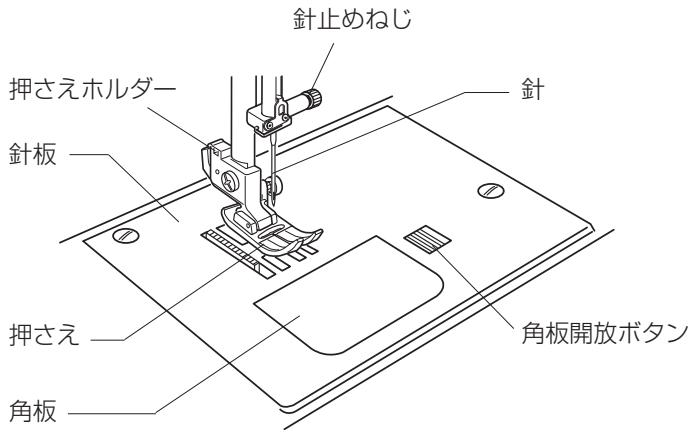
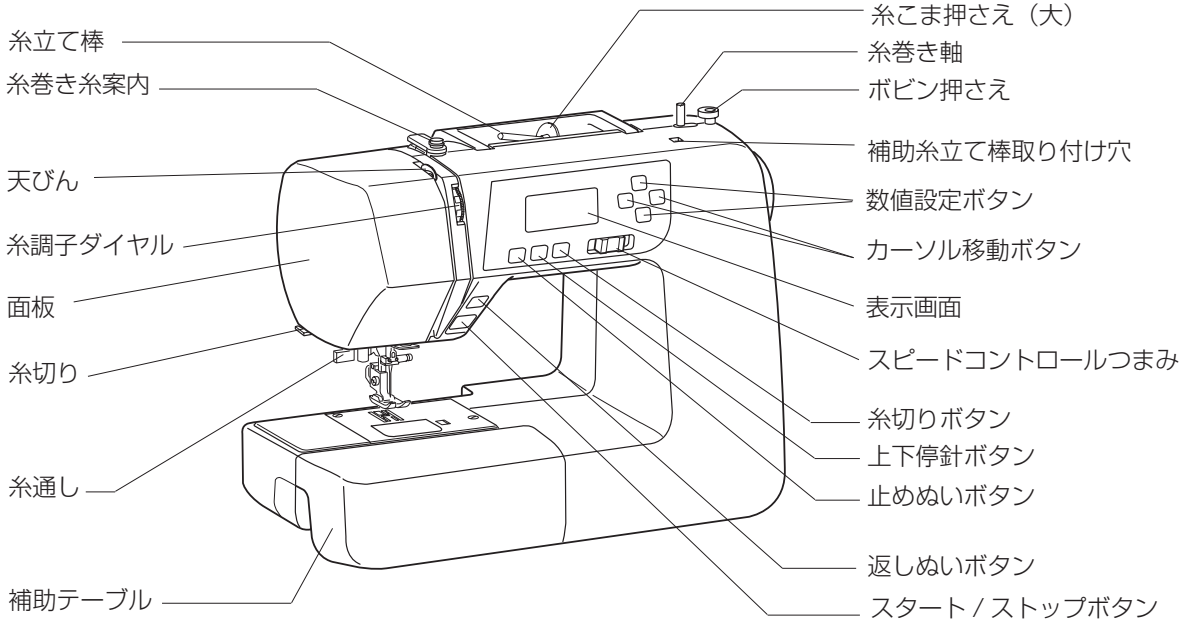
- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。
- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。



◇修理・調整についてのご案内

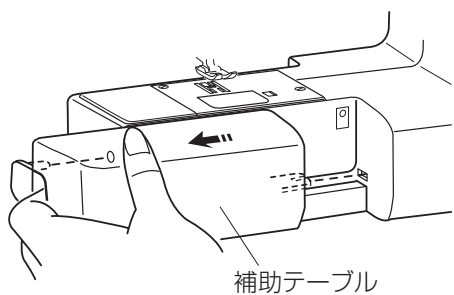
万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(54 ~ 55 ページ) により点検・調整を行ってください。

◎各部のなまえ



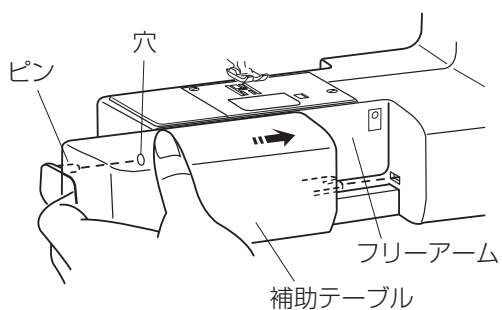
※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

◎補助テーブル



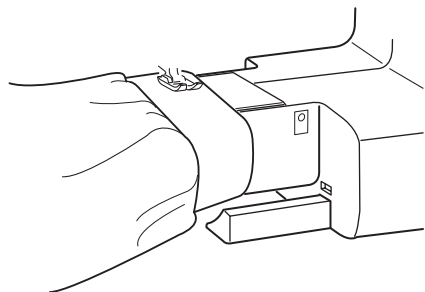
【補助テーブルの外し方】

補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。



【取り付け方】

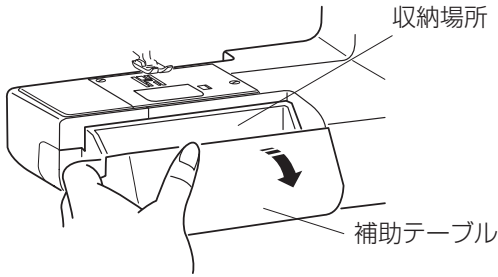
フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れ、取り付けます。



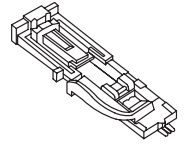
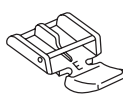
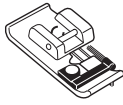
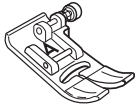
【フリーアームの使い方】

そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。

◎標準付属品と収納場所

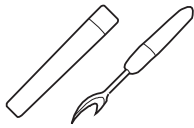


補助テーブルを開けると、押さえ等の小物が収納できます。

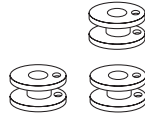


A: 基本押さえ C: たち目かがり押さえ E: ファスナー押さえ F: サテン押さえ G: まつりぬい押さえ R: ボタンホール押さえ

※ ミシン押さえホルダーに付いています。



シームリッパー



ボビン

※ もう1つは、ミシン内がまに入っています。



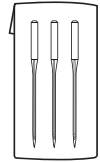
糸こま受け台



フェルト



ミシンブラシ



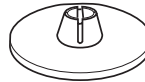
針



ドライバー



補助糸立て棒

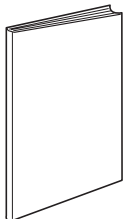


糸こま押さえ (大)

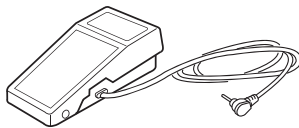


糸こま押さえ (小)

※ 糸こま押さえ (大) はミシン糸立て棒に付いています。

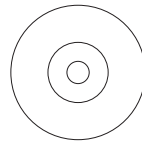


取扱説明書

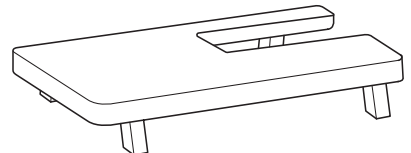


フットコントローラー

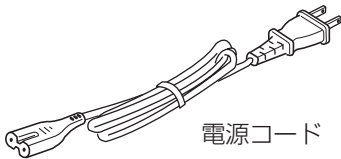
※ モデルによりオプションになります。



説明 DVD



ワイドテーブル



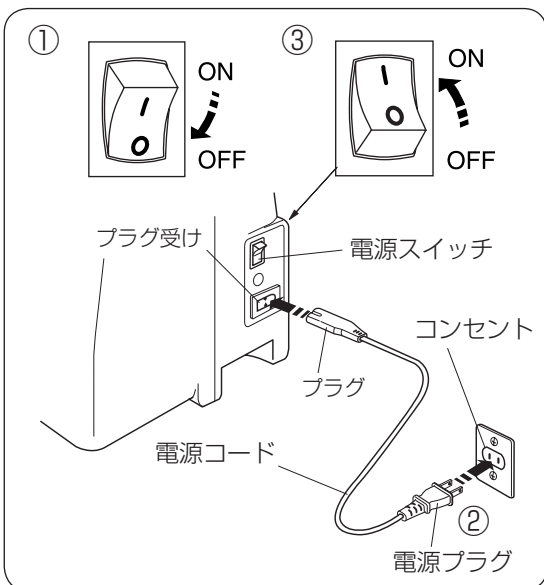
電源コード

◎基本操作

●電源のつなぎ方

⚠ 警告

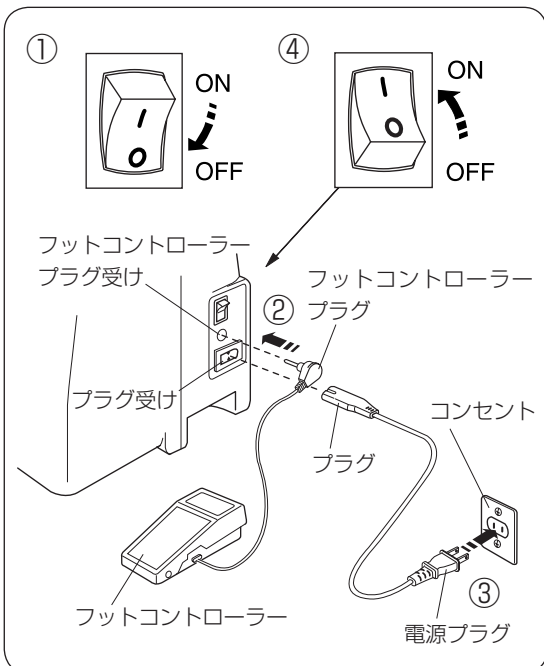
- 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因になります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり**火災の原因になります。**



★スタート/ストップボタン使用のとき

- 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 電源スイッチを「ON」(入) にします。

※ 電源スイッチを入れると、ミシンの準備のための初期設定が数秒間行われます。初期設定中は針などが動きますので、ミシンに触れないでください。



★フットコントローラー使用のとき

※ フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。

- 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。
- 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 電源スイッチを「ON」(入) にします。

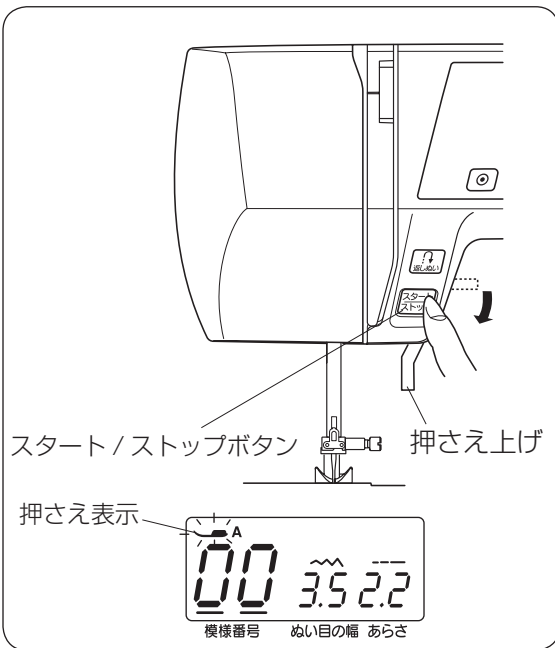
※ フットコントローラーを接続したときは、スタート/ストップボタンは使えません。

フットコントローラー表示

フットコントローラーを接続すると、表示画面にフットコントローラー表示されます。

機種番号 ぬい目の幅 あらさ

●スタート/ストップボタン



押さえ上げをさげてボタンを押すと、ゆっくり動きはじめてから、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。

もう一度押すと、通常、針が上の位置で止まります。

※ スタートおよびストップのとき、ボタンを押し続けているあいだ(手をはなすまでは)、低速で動きます。

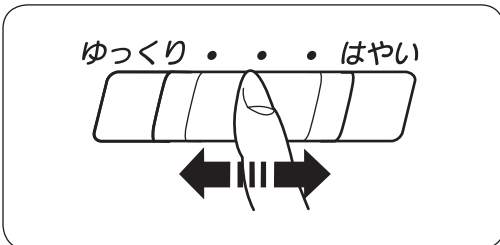
※ スタート/ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続は、外してください。

※ スタート/ストップボタンを押したとき、表示画面の押さえ表示が点滅したときは、押さえ上げをさげてからスタート/ストップボタンを押してください。

●速さの調節の仕方

ミシンのスピードは、フットコントローラーやスピードコントロールつまみで調節します。

★スピードコントロールつまみ



ぬう速さは、自由にセットできますので、スピードコントロールつまみをお好みの速さにセットしてください。

フットコントローラーは、深くふみ込むほど速くなります。

フットコントローラーを一杯に踏み込んだときの最高速度は、スピードコントロールつまみのセットした位置で決まります。

※ 通常、スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてお使いください。

※ フットコントローラーを接続したときは、スタート/ストップボタンは使えません。

※ フットコントローラーを踏んだとき、表示画面の押さえ表示が点滅したときは、押さえ上げをさげてからフットコントローラーを踏んでください。

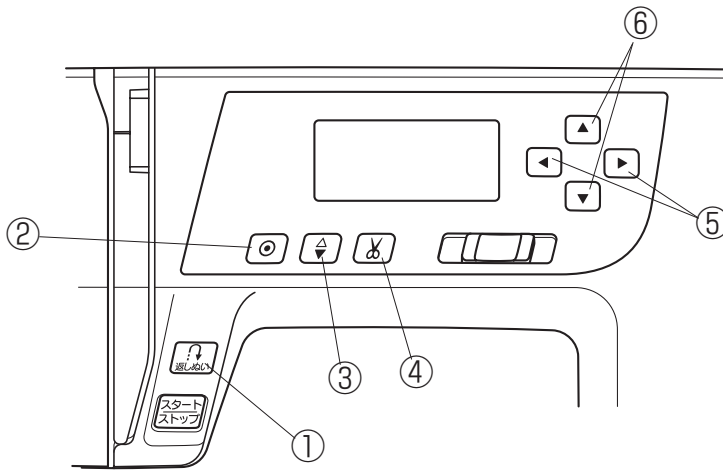
※ フットコントローラーの上に物を乗せないでください。けがや故障の原因になります。

※ フットコントローラーを使用する際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。動作不良を起こし、けがや故障の原因になります。

★フットコントローラー



●操作ボタンの主なはたらき



①返しぬいボタン



【運転中の返しぬい】

模様 $\begin{array}{cccccc} 00 & 01 & 07 & 08 & 30 \\ | & | & \text{W} & \text{W} & | \\ \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} \end{array}$ は、ぬっている途中でボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをします。

その他の模様のおきには、すぐに数針止めぬいをして自動的に止まります。

【停止中の返しぬい】

(フットコントローラーを接続しているときは、使用できません。)

模様 $\begin{array}{cccccc} 00 & 01 & 07 & 08 & 30 \\ | & | & \text{W} & \text{W} & | \\ \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} \end{array}$ は、ミシンが動いていない状態で返しぬいボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをし、指をはなすと止まります。

②止めぬいボタン



模様 $\begin{array}{cccccc} 00 & 01 & 07 & 08 & 30 \\ | & | & \text{W} & \text{W} & | \\ \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} \end{array}$ は、ボタンを押すと止めぬいをして自動的に止まります。

その他の模様のおきには、模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。

※ ぬう前にボタンを押しておく、模様を1つぬって自動的に止まります。

③上下停針ボタン

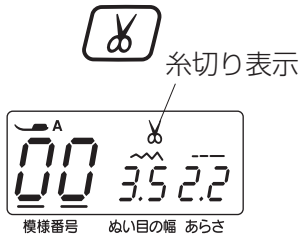


ミシンが止まっているときボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえることができます。

※ 上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンをとめたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。(電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。)

※ 下位置に切りかえておいても、模様 ($\begin{array}{cccccc} 50 & 51 & 52 & 53 & 54 & 55 & 56 & 57 & 58 & 59 \\ | & | & | & | & | & | & | & | & | & | \\ \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} & \text{P} \end{array}$) は、ぬい終わったときは、上位置で止まります。

④糸切りボタン



ぬい終わったあとに糸切りボタンを押すと、上糸と下糸を自動的に切ります。

※ 糸切り動作中は、糸切り表示が点滅します。

【糸切り記憶】

模様を選んで、糸切りボタンを長く押し、表示画面に糸切り表示を点灯させると、糸切りを記憶をすることができます。

糸切り記憶をしておくと、ぬい終わりに止めぬいが入っている模様（^{50 51 52 53 54 55 56 57 58 59} ）は、ぬい終わったあと糸切りボタンを押さなくても自動的に糸切りが行われます。

また、その他の模様も止めぬいボタンまたは返しぬいボタンを押して、ぬい終わりに止めぬいを入れると、ぬい終わってから自動的に糸切りが行われます。

※ ぬい終わりに止めぬいを行う方法は、8ページの返しぬいボタンと止めぬいボタンをごらんください。

【糸切り記憶の解除】

糸切りボタンを長く押し、糸切り表示を消します。

【糸切りの注意事項】

1. 30番および30番より太い糸、または特殊糸を切るときには面板に付いている糸切りを使用してください。
2. 糸切り後は、下糸は引き出さなくても、ぬうことができます。
3. 糸こまの糸残りが少ないものは、使用しないでください。糸がらみなどの原因になります。
4. 糸切り部に糸くすがたまと故障の原因になりますので、「ミシンのお手入れ」を参考に、糸くすを取り除いてください。（52ページをごらんください。）
5. 糸が切れず糸がからんでしまった場合は、電源を切り、針板を外して、からんでいる糸を取り除いてください。（52ページをごらんください。）

⑤カーソル移動ボタン

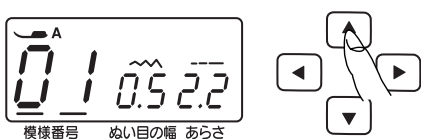


モード（模様、ぬい目の幅、ぬい目のあらさ）を選ぶときは、 ボタンを押します。

※ ボタンを押すと、カーソルが左へ移動します。

※ ボタンを押すと、カーソルが右へ移動します。

⑥数値設定ボタン



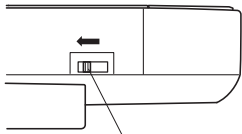
モードの数値を変更するときには、 ボタンを押します。

※ ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が大きくなります。

※ ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が小さくなります。

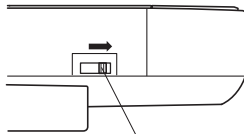
●送り歯のさげ方

送り歯をあげる位置



ドロップつまみ

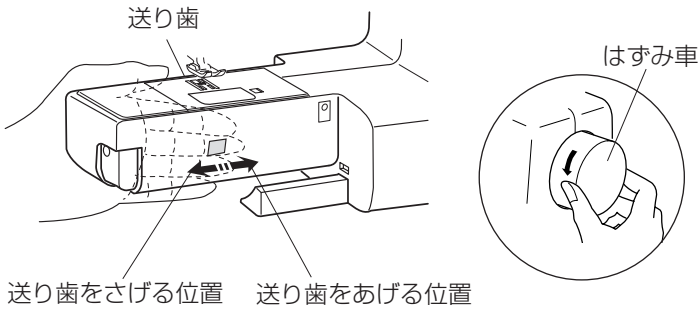
送り歯をさげる位置



ドロップつまみ

ボタン付けなどのときは、ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットして、送り歯を下げます。

※ 終わったら、「送り歯をあげる位置」にもどし、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認します。

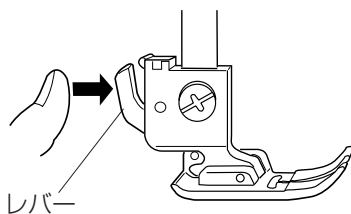
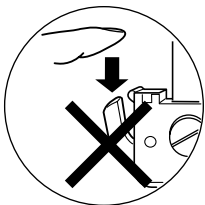


●押さえの取りかえ方

⚠ 注意

電源スイッチを切ってから行ってください。押さえは、模様にあったものをご使用ください。押さえが合っていないと、針が押さえにあたり、**けがの原因になります。**

【1】



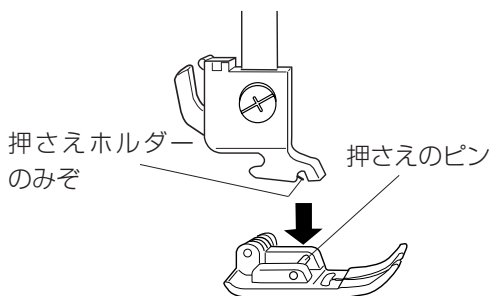
レバー

【1】 外し方

押さえ上げをあげて、押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押し、押さえを外します。

※ レバーを上から押すと、故障の原因になります。

【2】



押さえホルダーのみぞ

押さえのピン

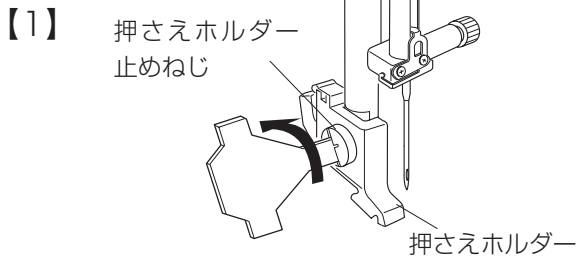
【2】 付け方

押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

●押さえホルダーの外し方、付け方

⚠ 注意

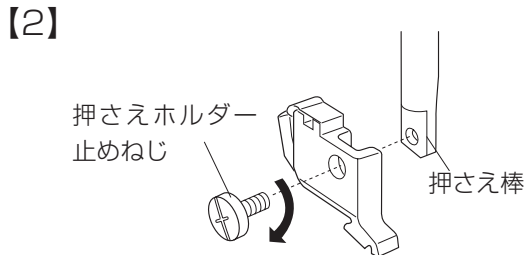
押さえホルダーの取り外し、取り付けをするときは、電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。



※ミシンのお手入れなどのときに外します。

【1】 外し方

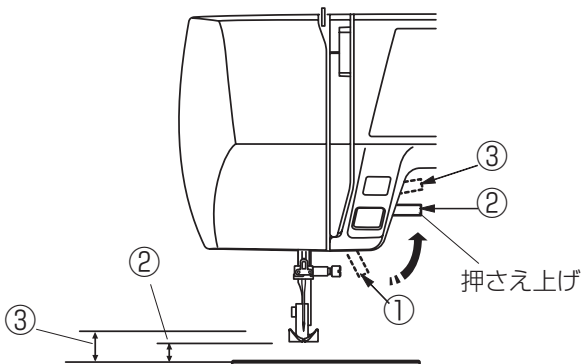
押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。



【2】 付け方

押さえホルダー止めねじを右にまわして、押さえホルダーを押さえ棒に取り付けます。

●押さえ上げ



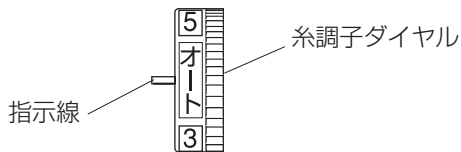
押さえ上げで、押さえのあげ下げをします。

押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押さえはさらにあがります。厚い布を入れるときにお使いください。

- ①さげた位置.....ぬいときには、さげておきます。
- ②普通にあげた位置..布の取り出しや、上糸をかけるとき、押さえの交換のときにあげます。
- ③さらにあげた位置..厚い布が入れやすくなります。

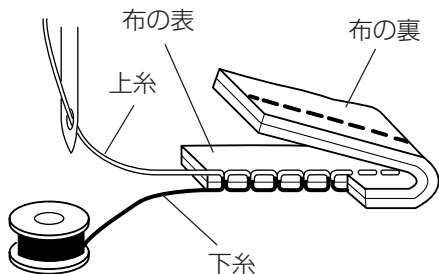
●糸調子の合わせ方

★自動糸調子



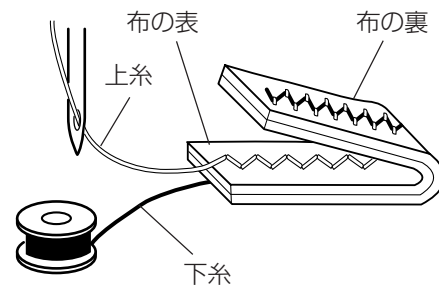
糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせて、上糸と下糸がバランス良くぬえるように、自動セットされます。

【1】



【1】 バランスのとれた糸調子

※直線ぬいのはきは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

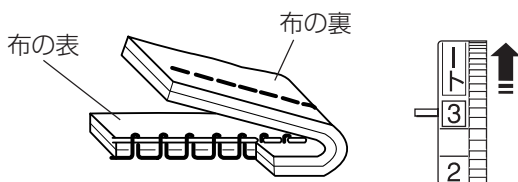


※ジグザグぬいのはきは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

※糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

★マニュアル糸調子

【2】

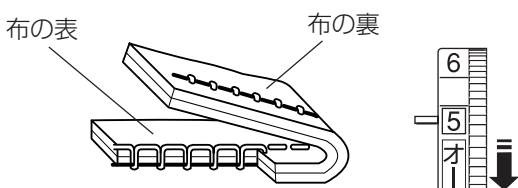


【2】 上糸が強すぎる時

下糸が布の表に出ます。

・・・糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【3】



【3】 上糸が弱すぎる時

上糸が布の裏に出ます。

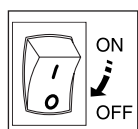
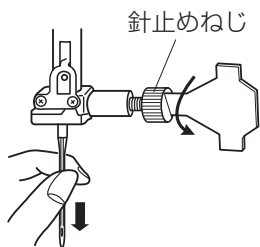
・・・糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。

●針の取りかえ方

⚠ 注意

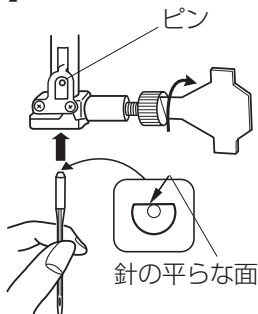
針の取りかえは、必ず電源スイッチを切って、電源プラグをコンセントから抜いてください。
けがの原因になります。

【1】

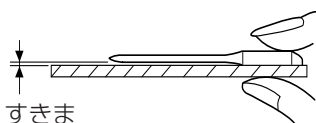


電源スイッチ

【2】



【3】



※針をあげ、押さえ上げをさげます。

【1】 外し方

針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。

【2】 付け方

針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

※ 正しく針が付けられていないと、糸通し
ができないだけでなく、針がゆるんで針
折れして危険です。

【3】 針の調べ方

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90番	9番～11番
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	絹糸 50番 綿糸 60番 ポリエステル、ナイロン 50～90番	11番～14番
		綿糸 50番	14番
厚い布	デニム ツイード コート地	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 ポリエステル 40番～50番	14番～16番
		ポリエステル 30番 綿糸 30番	16番

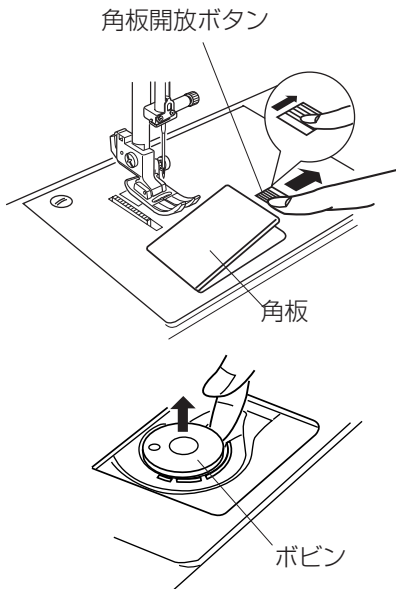
※ 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※ 原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

※ 伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャンメプルー針（オプション）を使用すると目とびの防止効果があります。

●下糸の準備をしましょう

★ボビンを取り出します

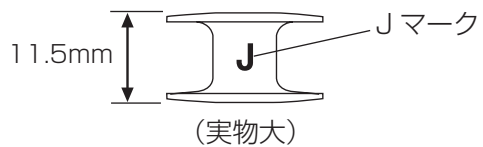


※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

角板開放ボタンを右へずらして角板を外し、ボビンを取り出します。

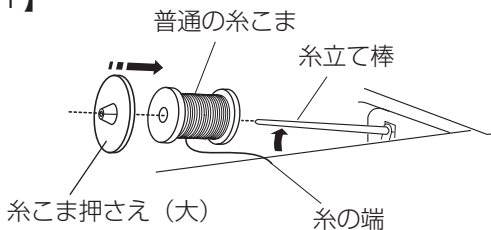
お願い

ボビンは当社専用のJマーク付きプラスチックボビンを使用してください。
(お買い上げの販売店へご相談ください。)



★糸こまをセットします

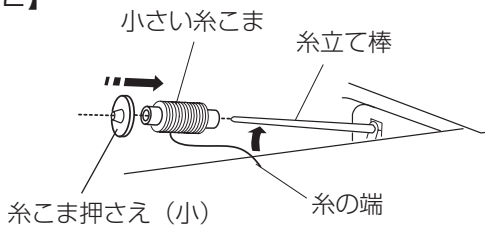
【1】



【1】 普通の糸こまのとき

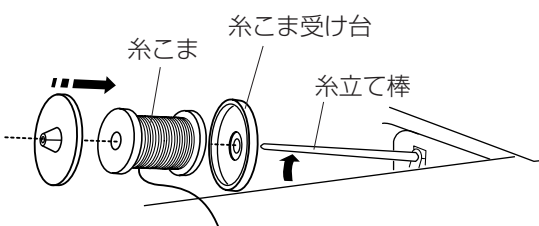
糸の端が糸こまの下から手前になるようにして糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえ (大) で糸こまを押さえます。

【2】



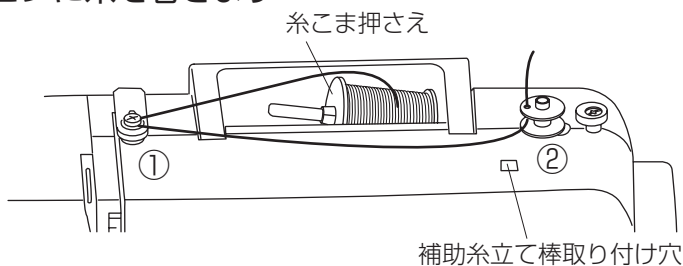
【2】 小さい糸こまのとき

小さい糸こまのときには、糸こま押さえ (小) を使ってください。

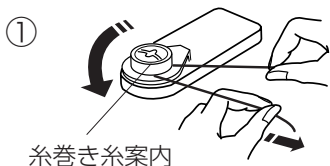


※ 糸が外れる場合は、糸こまの下に糸こま受け台をセットしてください。

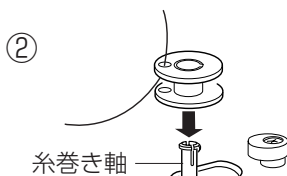
★ボビンに糸を巻きます



※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「はやい」にセットしてご使用ください。



① 糸こま側の糸を押さえ、うしろ側から手前まわし、矢印方向に引いて、糸巻き糸案内にかけます。



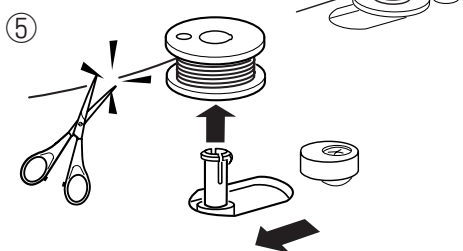
② ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。



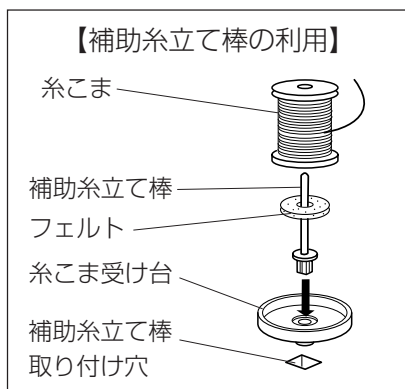
③ ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。表示画面に糸巻き表示され、糸巻き位置にセットされたことを表示します。



④ 糸の端をつまんだままスタートして、ボビンに糸が三重くらい巻きついたらミシンを止めて、糸を切ります。



⑤ ふたたびスタートして、巻き終わるとボビンの回転が止まります。ミシンを止めます。糸巻き軸を戻し、糸巻き棒からボビンを外し、糸を切ります。

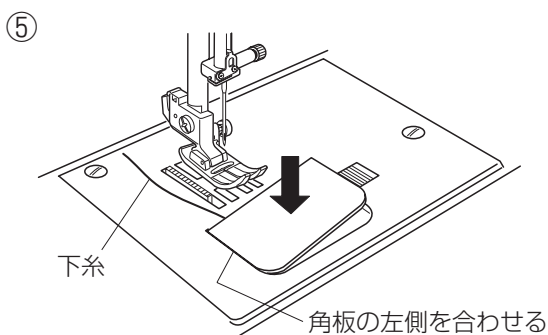
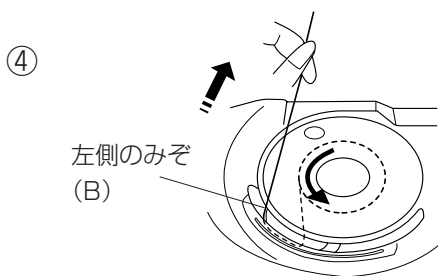
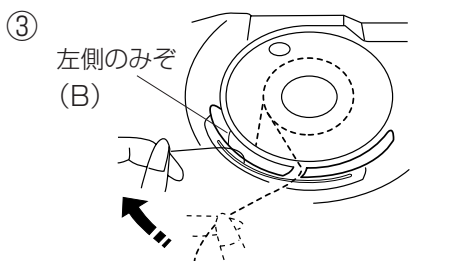
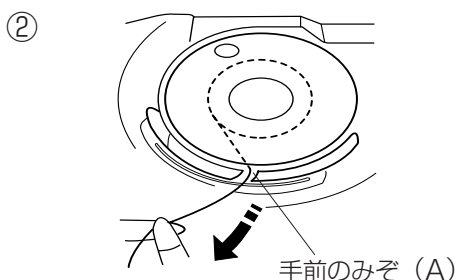
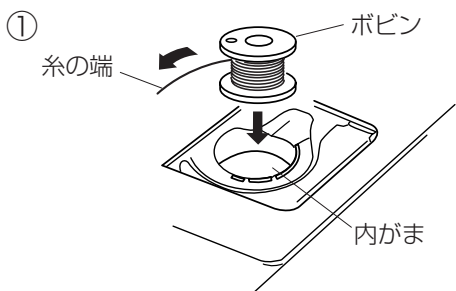


※糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから移動してください。

※糸巻きは、安全のためにミシンがスタートしてから約2分間で自動停止します。

※糸巻きには補助糸立て棒も利用できます。補助糸立て棒を使うときは、補助糸立て棒取り付け穴にセットします。糸の端は糸こまの右側からうしろに出るようにします。

★ボビンを内がまにセットします

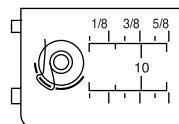


⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因になります。

① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

※角板にボビンから引き出される糸の図を表示しています。



② 糸の端を引きながら、手前のみぞ (A) にかかけます。

③ 糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ (B) のところに出します。

④ 糸を左側のみぞ (B) にかけるように向こう側に出します。

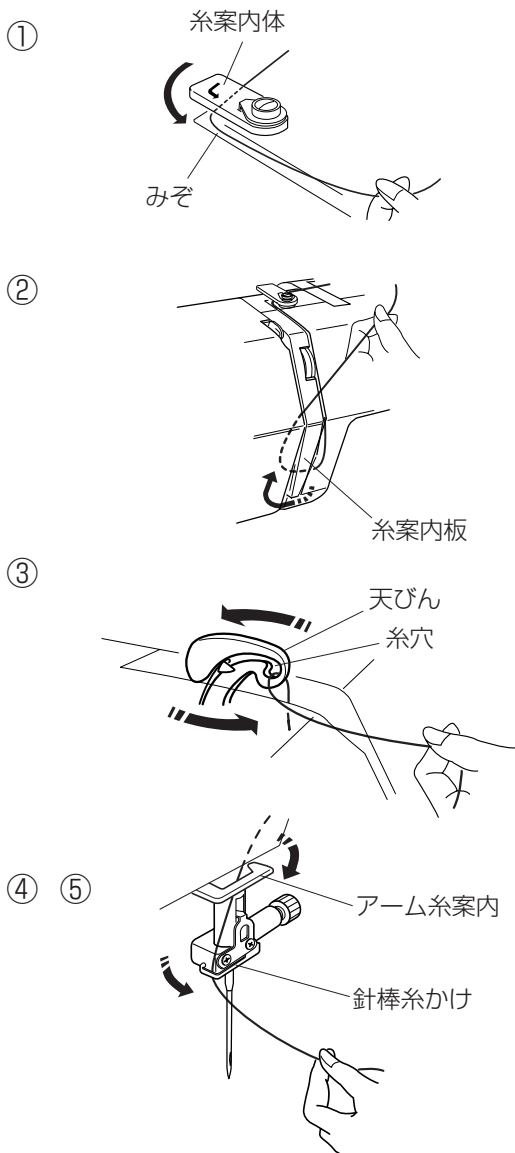
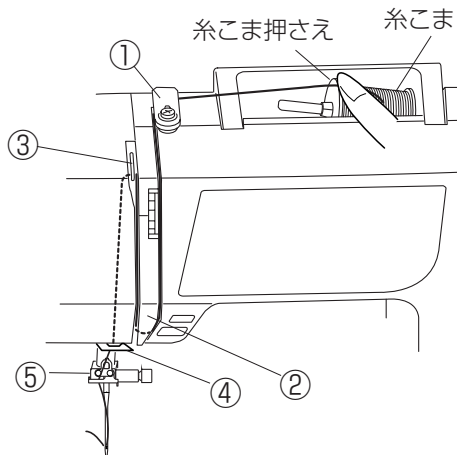
※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。

時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。

⑤ 下糸は 10cm くらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

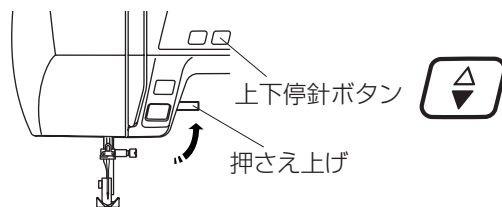
●上糸の準備をしましょう

★上糸のかけ方



【お願い】はじめに、準備を必ず行なってください。
ぬい不良の原因になります。

【準備】



- 1 押さえ上げをあげます。
- 2 電源を入れ「上下停針ボタン」を押して、針を上にあげます。
- 3 電源を切ります。

⚠ 注意

準備が終わったら、必ず電源スイッチを切ってください。**けがの原因になります。**

※ 糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。

① 糸こまから糸を引き出し、糸を軽く押さえながら糸案内体の下に巻きつけるようにしてかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。

② 糸こまから出ている糸を押さえ、糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。

※ 押さえ上げがあがっていないと、糸が正しくかけられません。ぬい不良の原因にもなりますので、押さえ上げがあがっているか確認してください。

③ 糸を天びんの右からうしろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。

※ 糸が天びんの糸穴まで入っていることを確認します。

④ アーム糸案内に右からかけます。

⑤ 針棒糸かけに左からかけます。

※ 針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、18ページをごらんください。

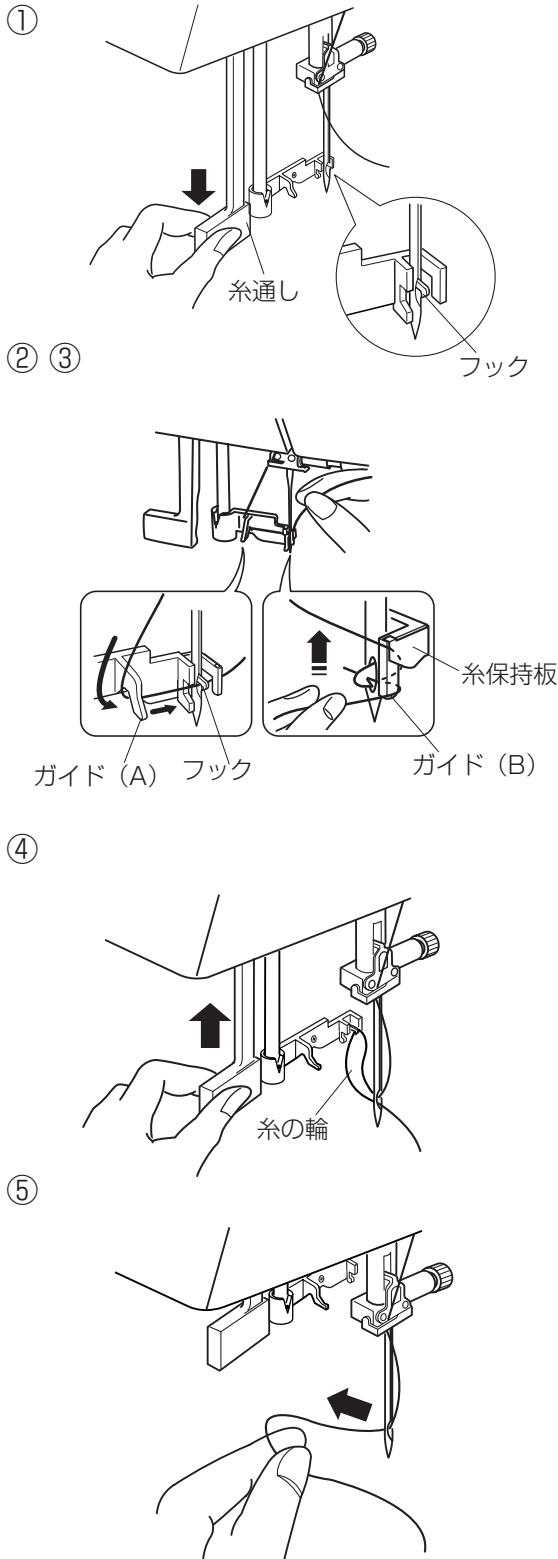
★糸通しの使い方

⚠ 注意

糸通しを使うときには、必ず電源スイッチを切ってください。

けがの原因になります。

※ 針は、11番～16番
糸は、50番～90番が使えます。



① 針をあげます。
糸通しを止まるまで引き上げます。
糸通しが止まった位置で、フックが針穴に入ります。

② 糸を左側からガイド (A) とガイド (B) にかけてみます。
※ 糸がフックの下を通っていることを確認します。

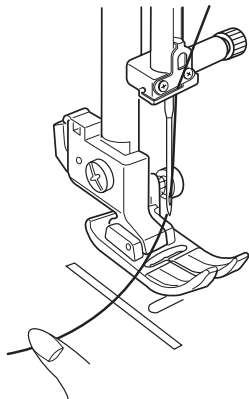
③ 糸をガイド (B) の右から手前にまわして、そのままガイド (B) の側にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。

④ 糸通しを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に出しながら、針穴から糸の端を引き出します。

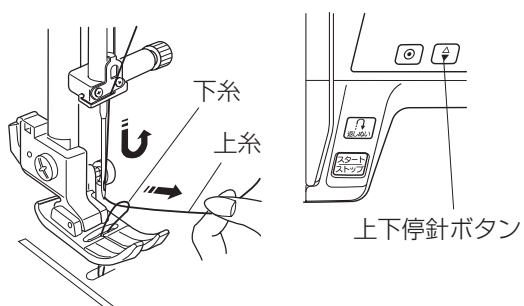
★下糸を引きあげます

①



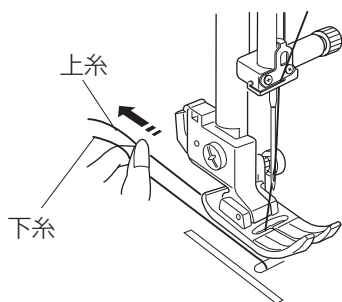
① 押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

②



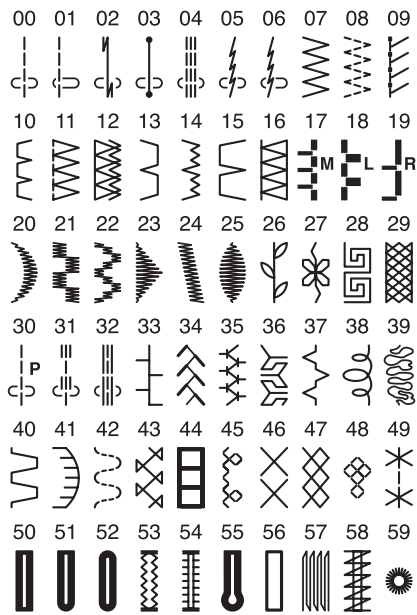
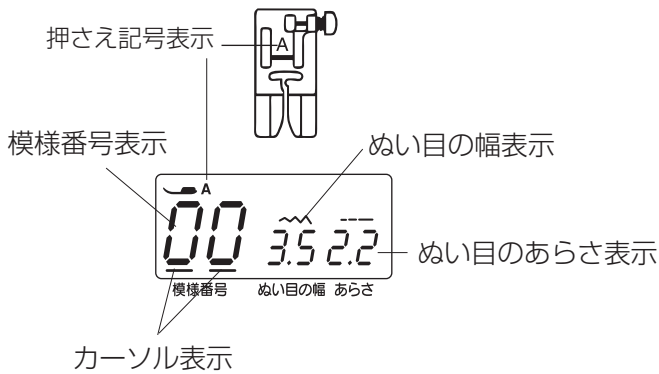
② 電源を入れ、上下停針ボタンを2回押し、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③

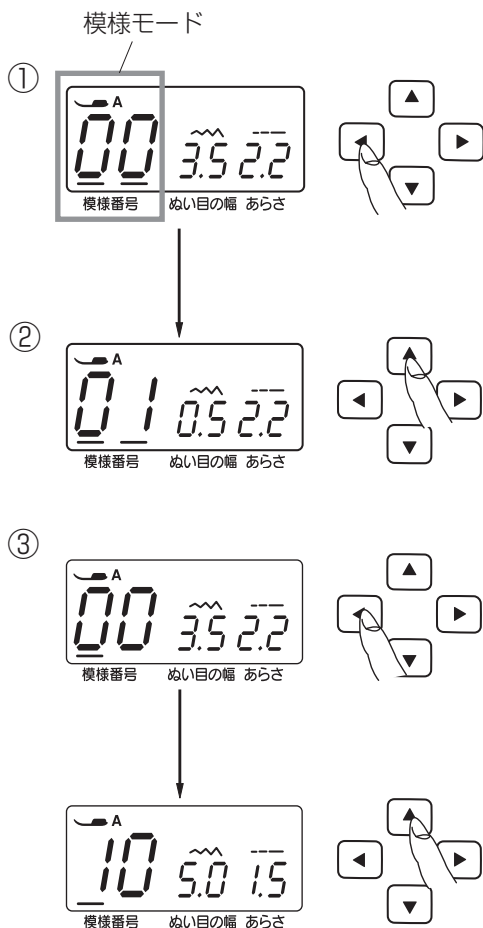


③ 上糸と下糸を押さえの下にして、約10cmほどうしろにそろえて引き出します。

●表示画面の説明



●模様の選び方



▲ ボタンを押して、ぬいたい模様の番号を選びます。

▼

① ◀ ▶ ボタンで模様モードを選びます。

② カーソルが2つあるときに、▲ ▼ ボタンを押すと、一の位と十の位の数値が変更できます。

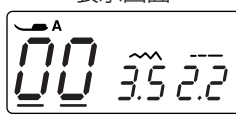


③ ◀ ▲ ▼ ボタンを押して、カーソルを1つにして、ボタンを押すと、十の位の数値が変更できます。

※ぬい目の幅、ぬい目のあかさの変更は、23、25 ページをごらんください。

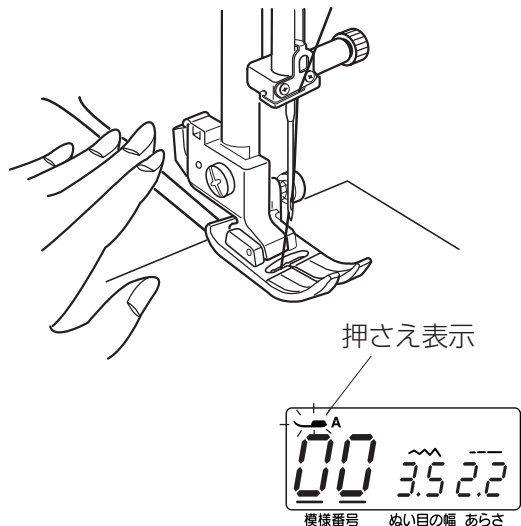
◎実用ぬい

●直線ぬい

ミシンのセット



模様 00 ―― ―― c/p	表示画面  模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ  A : 基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	---	---

★ぬい始め



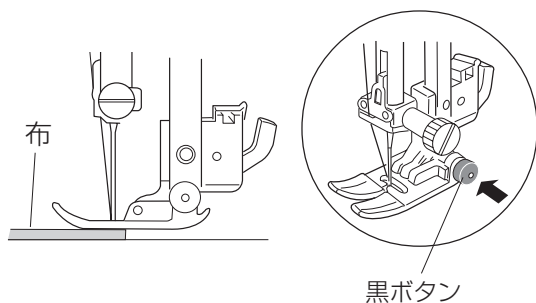
糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。

押さえ上げをさげて、ぬい始めます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいをする方法と、自動返しぬいのついた模様  と自動止めぬい模様  を使う方法があります。(24ページをごらんください。)

※ スタート/ストップボタンを押したとき、表示画面の押さえ表示が点滅したときは、押さえ上げをさげてスタートします。

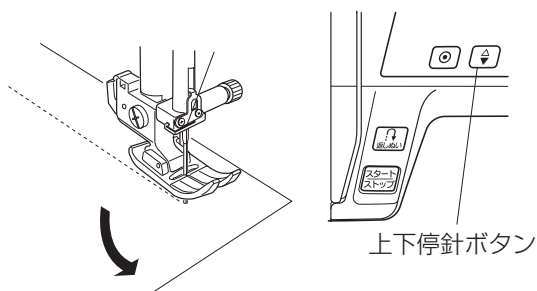
★厚手の布端のぬい始め



① ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。

② ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。押さえが完全に布の上にとると、黒ボタンの押し込みは、自動的に解除されます。

★ぬい方向の変更

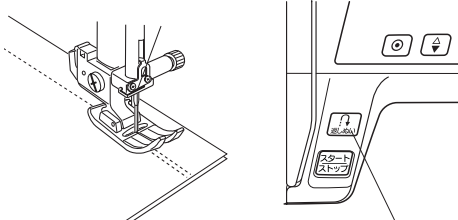


ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。

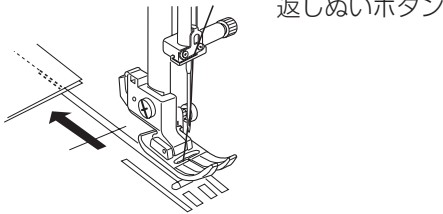
針を布にさしたまま、ぬい方向をかえます。

★ぬい終わり

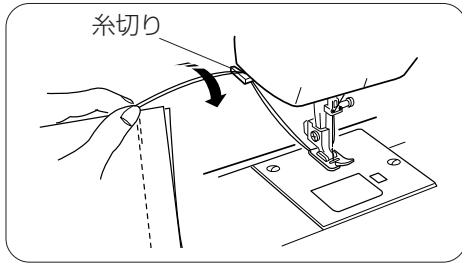
【1】



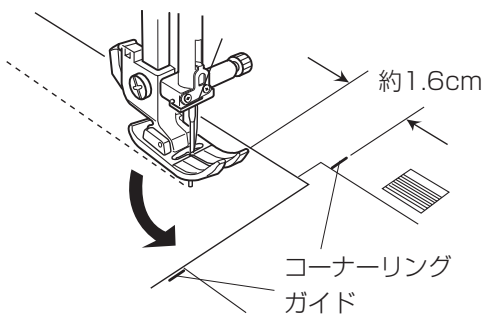
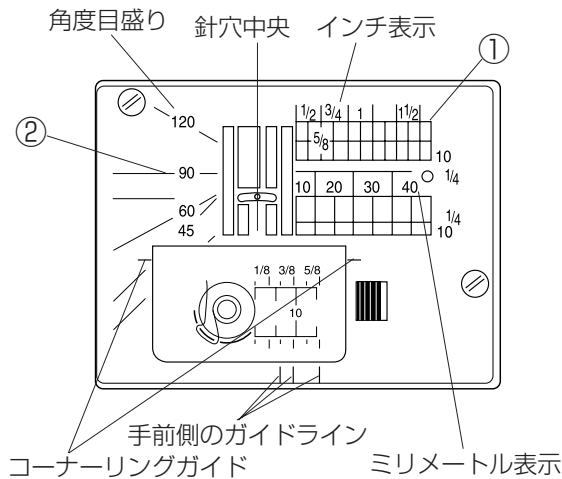
【2】



【3】



●針板ガイドラインの利用



【1】 返しぬい

返しぬいボタンを押しながら数針返しぬいをします。

※ぬい終わりのほつれ止めは返しぬいボタンを押しながら返しぬいする方法と、自動返しぬい模様⁰²と自動止めぬい模様⁰³を使う方法があります。(24ページをごらんください。)

【2】 布の引き出し方

針があがった位置で押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

【3】 糸切り

ミシンを止め、糸切りボタンを押して糸を切ります。
※30番および30番より太い糸、または特殊糸を切るときには、面板に付いている糸切りを使用してください。布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

針板、および角板には針穴中央からの長さを表示しています。

① 針板右側には 針穴中央からの長さを表示しています。

※ ガイドラインの数字は針穴中央からガイドラインの間かくを「ミリメートル」と「インチ」で示しています。

※ 針板の手前側にもガイドライン左から 0.6cm(1/4)、0.9cm(3/8)、1.6cm(5/8) を表示しています。

布端をガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。

② 針板左側にはパッチワークのピース作りに使う角度目盛りを表示しています。

※ パッチワーク布片の形状により針板の角度目盛りに合わせると印なしでぬえます。

【コーナーリングガイドの利用】

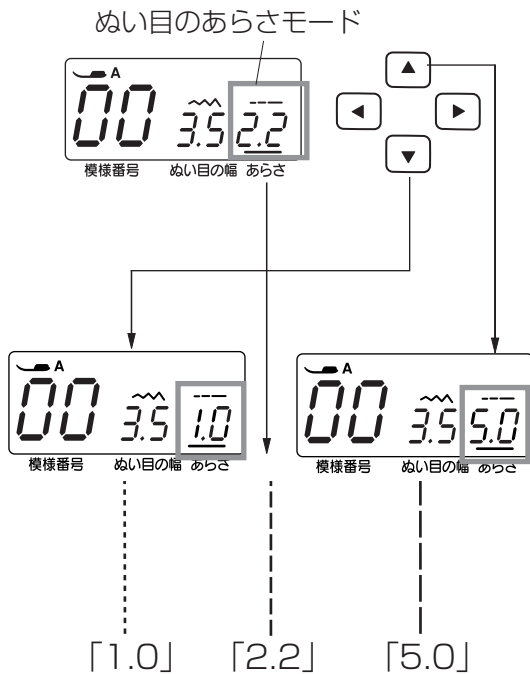
布端から1.6cmのところまで直角にぬい方向をかえるとき

① 布端がコーナーリングガイドのところきたら、ミシンを止め、上下停針ボタンを押して、針を布にさします。

② 押さえをあげ、布を回転させてガイドラインの1.6cm(5/8) に合わせます。

③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートします。

●ぬい目のあさをかえるとき



◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目のあさモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 2.2 です。
※ 0.0～5.0 のはんいでかえることができます。

0.0 から 1.0 に、1.0 から 1.5 に、1.5 から 1.8 にかえることができます。1.8 から 3.0 まで 0.2 ずつかえることができ、また 3.0 から 5.0 まで 0.5 ずつかえることができます。

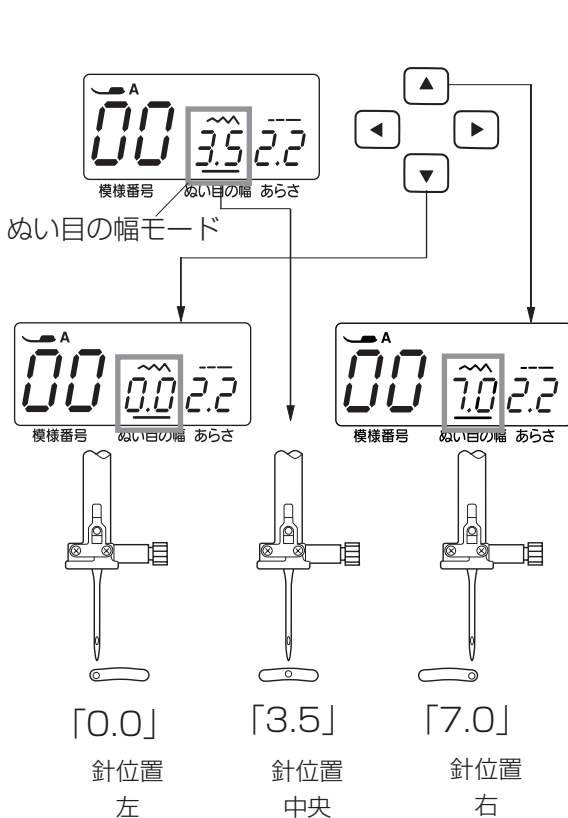
※ ぬい目のあさは、布や糸によりかわりますので、画面の数値は目安としてミリメートルで表示しています。

「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細くなります。

「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらかくなります。

※ 返しぬいのぬい目あさは、表示数値より小さくなります。

●針位置をかえるとき



※ 直線状のぬい目、模様 $\begin{matrix} 00 & 01 & 02 & 03 & 04 & 30 & 31 & 32 \\ \downarrow & \downarrow & \downarrow & \downarrow & \downarrow & \downarrow & \downarrow & \downarrow \\ \text{c} & \text{p} & \text{c} & \text{c} & \text{c} & \text{c} & \text{c} & \text{c} \end{matrix}$ は、針位置をかえることができます。

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 3.5 です。

※ 模様 01 の初期値（購入時のセット状態）は 0.5 です。

※ 0.0～7.0 のはんいで 0.5 ずつかえることができます。



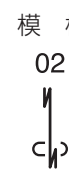




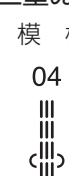


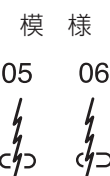


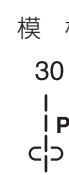





※ 画面の数値は、ぬい目の幅の目安をミリメートルで表示しています。

画面の数値は直線状模様の場合、左針位置からの距離の目安をミリメートルで表示しています。


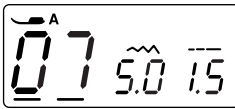
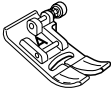

「▼ ボタン」を押すと表示される数値が小さくなり、針位置が左に移動します。

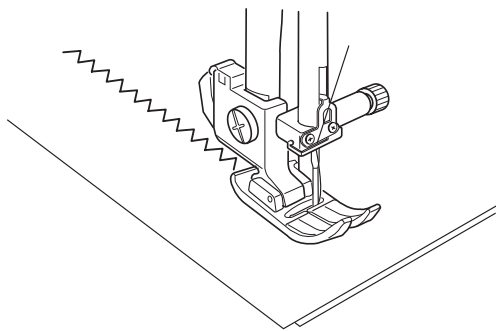
「▲ ボタン」を押すと表示される数値が大きくなり、針位置が右に移動します。

●直線状のぬい目

ミシンのセット	用途
<p>地ぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>00 01</p>  <p>A: 基本押さえ</p>  <p>オート</p> 	<p>地ぬいや、ファスナー付けなどに利用します。</p> <p>※模様  は、端ぬいに利用します。</p>
<p>自動返しぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>02</p>  <p>A: 基本押さえ</p>  <p>オート</p> 	<p>しっかりしたほつれ止めを自動的に行うときに使います。ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に返しぬいをしたあと、直線ぬいをします。</p> <p>ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを一度押します。数針返しぬいをして自動的に止まります。</p> <p>糸切り予約をした場合は、糸を切って自動的に止まります。</p>
<p>自動止めぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>03</p>  <p>A: 基本押さえ</p>  <p>オート</p> 	<p>目立たない止めぬいを自動的に行うときに使います。ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に止めぬいをしたあと、直線ぬいをします。</p> <p>ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを一度押します。止めぬいをして自動的に止まります。</p> <p>糸切り予約をした場合は、糸を切って自動的に止まります。</p>
<p>三重ぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>04</p>  <p>A: 基本押さえ</p>  <p>オート</p> 	<p>伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに利用します。</p>
<p>伸縮ぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>05 06</p>  <p>A: 基本押さえ</p>  <p>オート</p> 	<p>布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。</p> <p>※模様  は、うす地のニット素材に利用します。</p>
<p>ピーシング</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>30</p>  <p>A: 基本押さえ</p>  <p>オート</p> 	<p>ぬい目のあかさ 1.8mm のパッチワークキルトに利用します。</p> <p>※針板手前側のガイドライン 0.6cm (1/4) はパッチワークピース作りに利用ください。(22 ページをご覧ください。)</p> <p>※模様の横にある P はピーシングを表示しています。</p>
<p>飾りぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>31 32</p>  <p>F: サテン押さえ</p>  <p>オート</p> 	<p>飾りぬいや、キルティングなどに利用します。</p>

●ジグザグぬい

模様 07 	表示画面  模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ  A: 基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	--	---



ジグザグぬい（模様07）で、「A押さえ」を使用する場合は、試しぬいをして、ぬい縮みがでないよう、ぬい目の幅やぬい目のあさを調節して、ご使用ください。

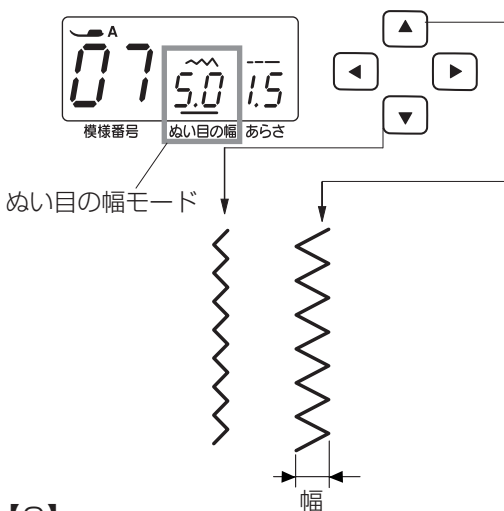
（薄地の場合で、ぬい目の幅3.0、ぬい目のあさ2.0が目安です。）

ジグザグぬいは、たち目かがりや、ボタン付けなどいろいろなぬい方ができます。

※ 伸縮性のある布（ニット、ジャージ、トリコットなど）には伸びにくい芯地を貼るときれいにぬえます。

★ぬい目の幅・ぬい目のあさをかえるとき

【1】



【1】ぬい目の幅をかえるとき

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は5.0です。

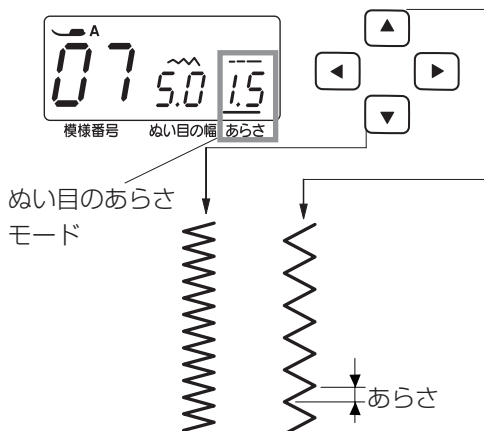
※ 0.0～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

※ 画面の数値は、目安としてミリメートルで表示しています。

「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、幅が広がります。

「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、幅がせまくなります。

【2】



【2】ぬい目のあさをかえるとき

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目のあさモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は1.5です。

※ 0.2～5.0のはんいでかえることができます。（0.2～1.0まで0.1ずつ、1.0から5.0まで0.5ずつかえることができます。）

※ 画面の数値は、ぬい目の幅の目安をミリメートルで表示しています。

「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、あさがあらかくなります。

「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、あさが細かくなります。

●たち目かがり

ミシンのセット

模様 07

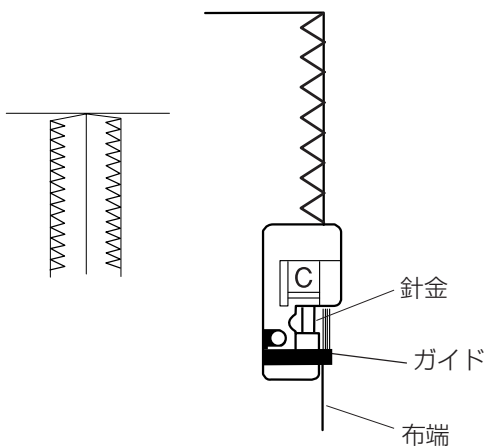
表示画面

押さえ

糸調子ダイヤル

オート

A: 基本押さえ または
C: たち目かがり押さえ



布端をたち目かがり押さえのガイドに当ててぬえます。

布端のほつれ止めとして広く利用します。

※たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬえます。

⚠ 注意

たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は4.5以下では使用しないでください。針が針金にあたり、**けがの原因になります。**

「A押さえ」を使用する場合は、試しぬいをして、ぬい縮みがでなよう、ぬい目の幅やぬい目のあらさを調節して、ご使用ください。

ミシンのセット

模様 11

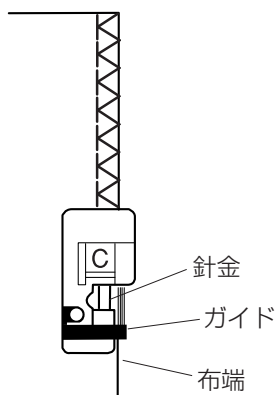
表示画面

押さえ

糸調子ダイヤル

オート

C: たち目かがり押さえ



地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに使用します。

布端をガイドにあててぬえます。

※ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬえます。

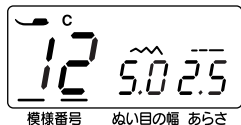
ミシンのセット

模様

12



表示画面



押さえ

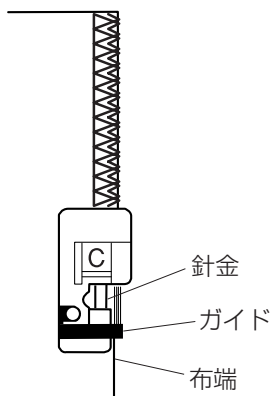


糸調子ダイヤル

オート



C: たち目かがり押さえ



普通の布や厚い布およびほつれやすい布のしっかりした布端をかがるときに使います。

布端を押さえのガイドにあててぬいます。

※ ぬい目の幅は、5.0～7.0のあいだで変更できます。

※ ぬう前に必ず押さえの針金に針があたらないことを確認してください。

●トリコットぬい

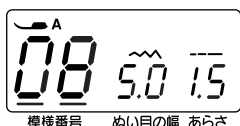
ミシンのセット

模様

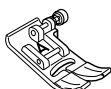
08



表示画面



押さえ

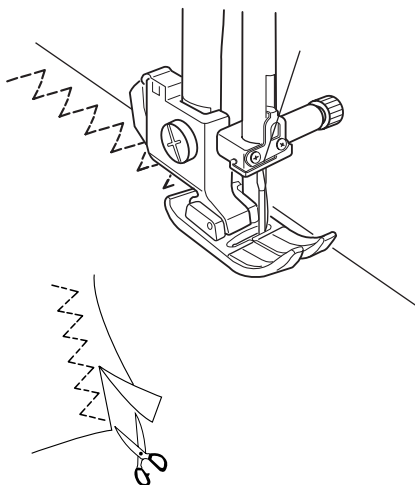


糸調子ダイヤル

オート



A: 基本押さえ


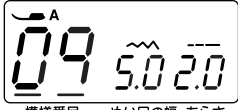




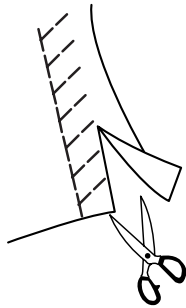
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。

ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

●ニットステッチ

ミシンのセット




模様 09 	表示画面  模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ  A : 基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	---	---



ニット地のかがりぬいに使用します。
ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところ
をぬい目近くで切り落とします。


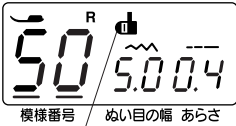
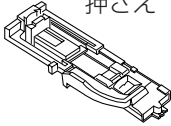

●ボタンホール

★ボタンホールの種類

50	◎スクエア（両止め）
	普通の布から厚い布まで一般的な使用目的のボタンホールです。
51	◎片ラウンド
	普通の布からうすい布に使います。ブラウス、子供服などでよく使われます。
55	◎キーホール（鳩目穴）
	普通の布から厚い布に使われる一般的なボタンホールです。 大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。

★ボタンホール50（スクエア）のぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
	 R: ボタンホール押さえ ボタンホール切りかえレバー表示		

※ボタンホールを選ぶと、表示画面にボタンホール切りかえレバー表示されます。

ボタンホールをぬうときには、ボタンホール切りかえレバーをさげてぬいます。

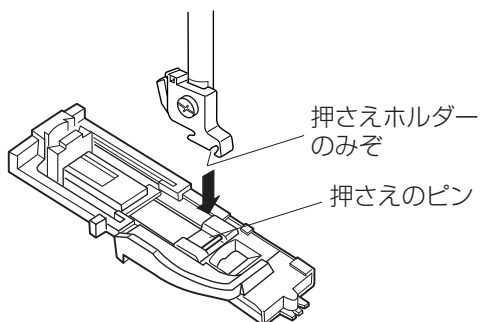
※ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。（30ページをごらんください。）

※ボタンの直径が1.0～2.5cmまでのボタンホールができます。

※ぬうものと同じ布で試しぬいをして、ミシンのセットを確かめましょう。

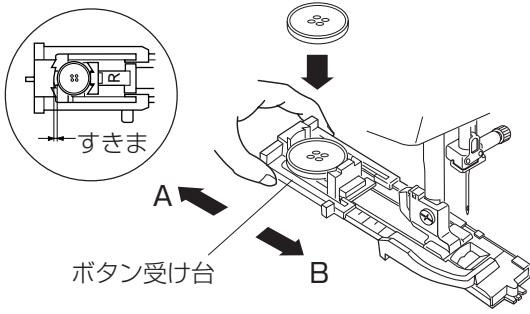
※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

①



① 押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。

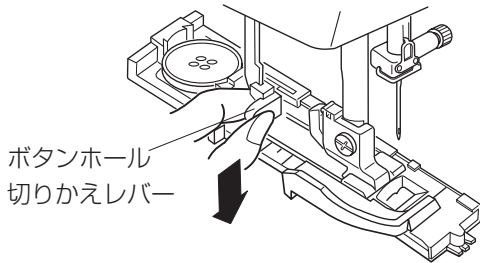
②



② ボタン受け台をA方向に引き、ボタンをのせてB方向に戻しはさみます。

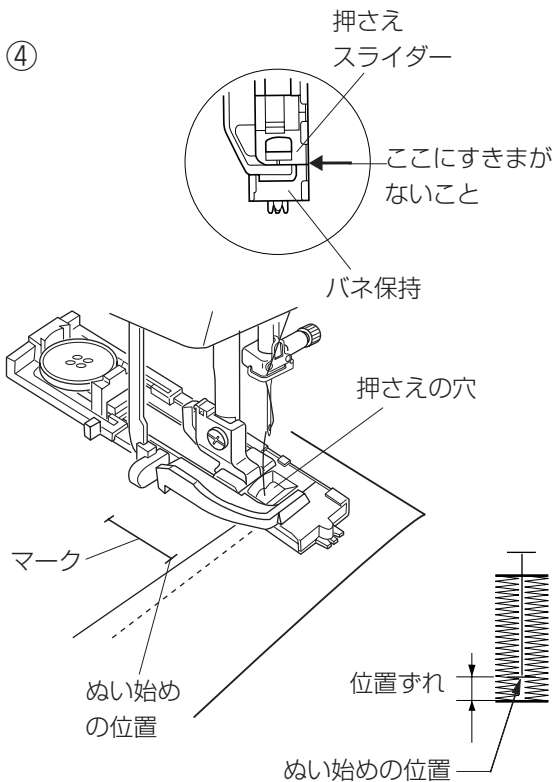
※ ボタン受け台とボタンの間にすきまをあげると、その分大きなボタンホールができます。

③



③ ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい引きさげます。

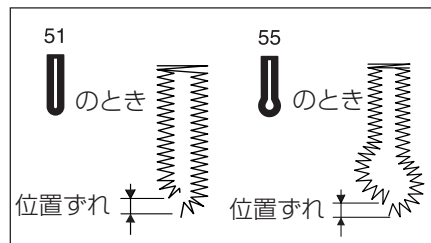
④



④ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。布を入れ、手ではずみ車を手前にまわし、ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。

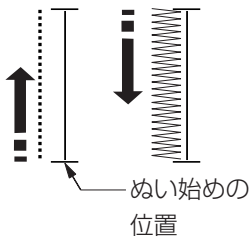
※ ぬい始めに、押さえスライダーとバネ保持のあいだにすきまがないことを確認してください。

ぬい始めの位置ずれになります。

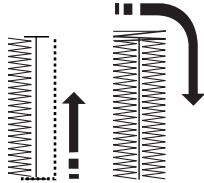


⑤

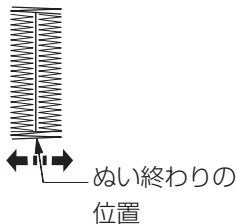
【1】



【2】



【3】



⑤ ミシンをスタートしてぬいます。

[ぬっていく順序]

【1】 第1ステップ 下ぬいをし、左側のラインタックをぬいます。

【2】 第2ステップ 下ぬいのあと、かんぬきと右側のラインタックをぬいます。

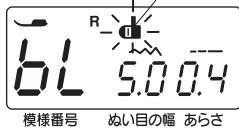
【3】 第3ステップ かんぬきと止めぬいを
して自動的に止まります。

糸切り予約をした場合は、糸を切って自動的に止まります。

★ボタンホール重ねぬい

ボリューム感のあるボタンホールができます。一度目のボタンホールをぬい終わったら押さ上げをさげたまま、ミシンをスタートさせます。自動的に重ねぬいをします。

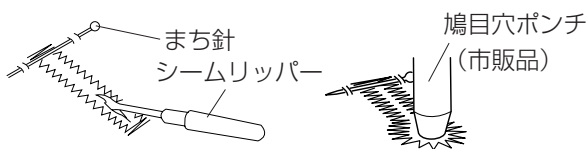
ボタンホール切りかえレバー表示



ぬい途中で模様番号が **6L** と表示 (2~3秒) され、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅したとき

ボタンホール切りかえレバーをさげないで、ボタンホールを0.5cmぬったときに表示します。ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。

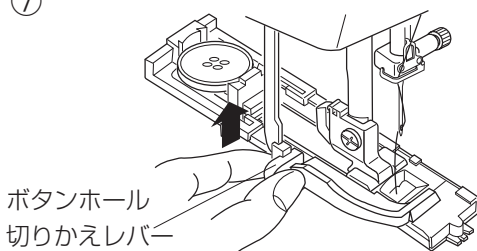
⑥



⑥ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。

※ キーホールボタンホールは、市販のポンチで穴を開けてから、シームリッパーで切り開きます。

⑦



⑦ ぬい終わったらボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっばいに押しあげて戻します。

★ぬい目の幅・ぬい目のあさをかえるとき

【1】

ぬい目の幅モード

模様番号 ぬい目の幅 あらさ

幅「2.5」(小) 幅「7.0」(大)

【2】

ぬい目のあかさモード

模様番号 ぬい目の幅 あらさ

送り「0.2」(小) 送り「0.8」(大)

【1】ぬい目の幅をかえるとき

◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は5.0です。

「▲ボタン」、「▼ボタン」を押すと、ボタンホールの幅がかわられます。

※ 2.5～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

【2】ぬい目のあさをかえるとき

◀ ▶ ボタンで、ぬい目のあかさモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は0.4です。

「▲ボタン」、「▼ボタン」を押すと、ぬい目のあさがかわられます。

※ 0.3～0.8のはんいで0.1ずつかえることができます。

★ボタンホール51、55のぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
51 55 			
	模様番号 ぬい目の幅 あらさ	R: ボタンホール押さえ	

51 (ぬっていく順序)

ぬい始めの位置 ぬい終わり

55

ぬい始めの位置 ぬい終わり

※ぬい方はボタンホール50（スクエア）と同じです。

（29～31ページをごらんください。）

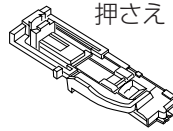
※模様51のぬい目の幅は2.5～5.5のはんいで0.5ずつかえることができます。

模様55のぬい目の幅は5.5～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

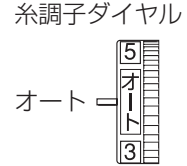
ぬい目のあさは、両方とも0.3～0.8のはんいで0.1ずつかえることができます。

●芯入りボタンホール

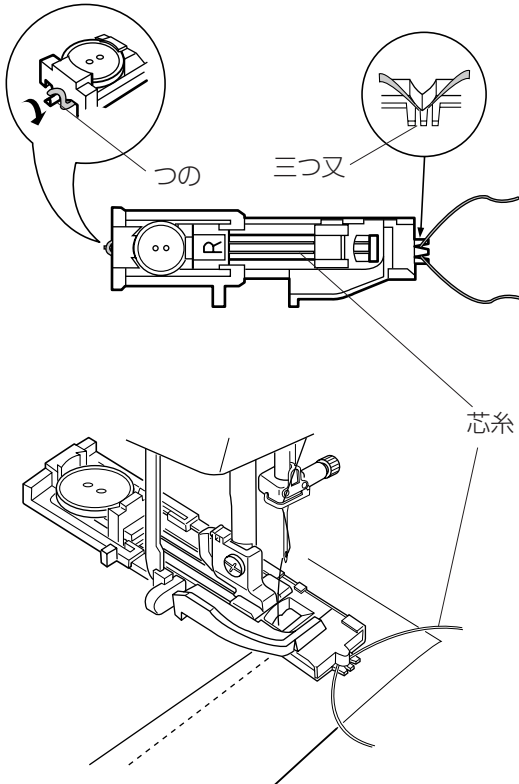
ミシンのセット



R: ボタンホール押さえ



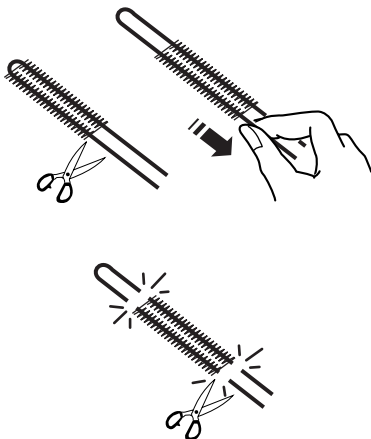
① ②



① 芯糸の中央部を押さえのうしろ側にあるつのかかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

② ボタンホール（スクエア）の手順と同じようにぬいます。
※ 29～31 ページをごらんください。

③



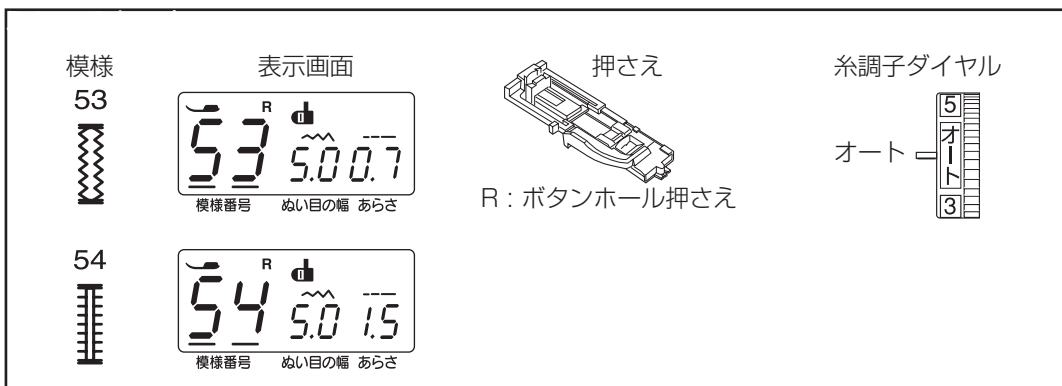
③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※ ぬい目の幅は、芯糸に合わせてセットします。

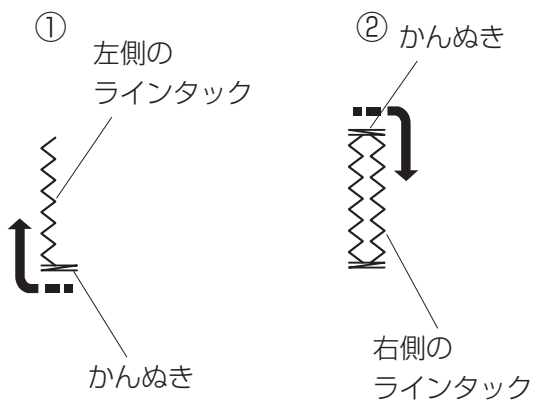
※ 穴のあけ方は、31 ページをごらんください。

※ 左側の芯糸が引けないときは、前後の芯糸を切ります。

●ニットボタンホール



〔模様 53 の例〕



※ めい方はボタンホール（スクエア）の手順と同じです。

（29～31 ページをごらんください。）

【めい順序】

- ① かんぬきと左側もラインタック部をめいませす。
- ② かんぬきと右側のラインタック部をめい、止めめいをして自動的に止まります。

【ボタンホールの幅をかえるとき】

めい目の幅調節キーを押して「2.5～7.0」まで 0.5 ずつかえることができます。

【ボタンホールのめい目のあらかさをかえるとき】

模様 53 の場合：

めい目のあらかさ調節キーを押して「0.5～1.0」まで 0.1 ずつかえることができます。

模様 54 の場合：


めい目のあらかさ調節キーを押して「0.5～2.5」まで 0.5 ずつかえることができます。

※ 左右のめい目のあらかさがそろわないときには「模様の形の整え方」（55 ページ）をごらんください。


●たまぶちボタンホール

ミシンのセット

模様
56

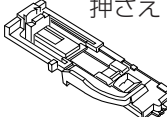


表示画面




模様番号 ぬい目の幅 あらさ

押さえ

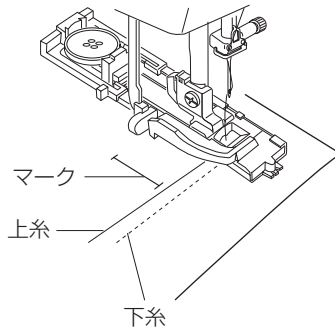
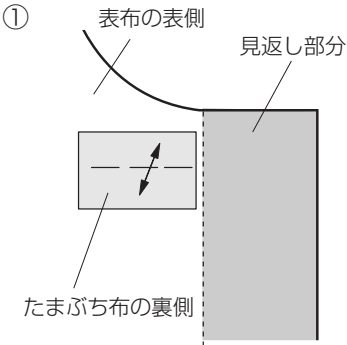


R: ボタンホール押さえ

糸調子ダイヤル

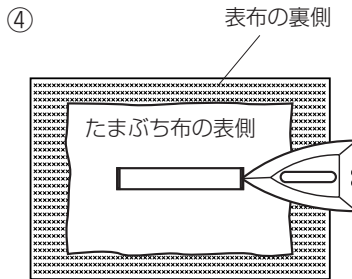
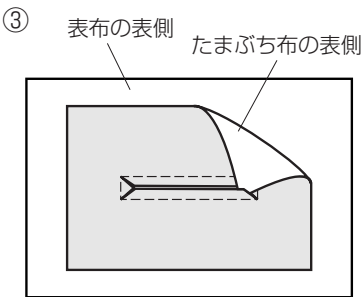


オート



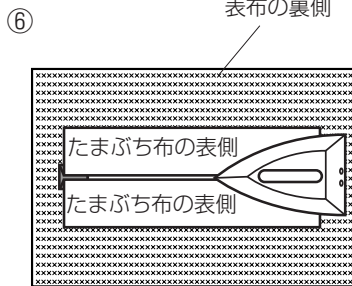
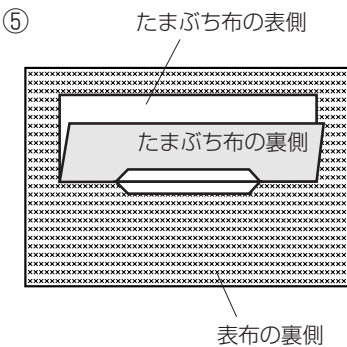
① バイアス地のたまぶち布と表布をしつけぬいで止めます。

② ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげてスタートします。



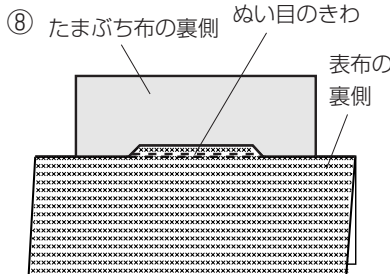
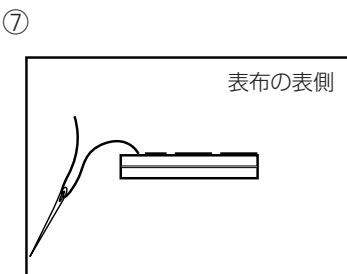
③ ぬい終わったらY字型に切り込みを入れ、たまぶち布を裏側に出します。

④ 布表の裏側にたまぶち布の表側全体が見えるまでたまぶち布を引き出し、アイロンの先で角を整えます。



⑤ ぬいしろを正しく割ります。

⑥ アイロンで幅を整えます。

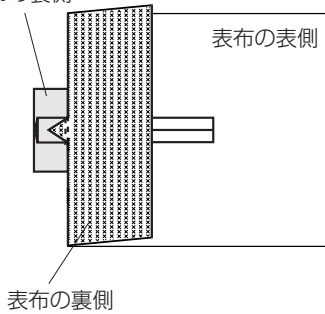


⑦ ぬい目につけをします。

⑧ ぬい合わせたぬい目のきわをぬいます。

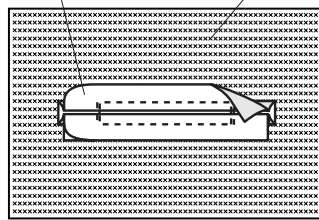
⑨

たまぶち
布の裏側



⑩

たまぶち布の表側 表布の裏側

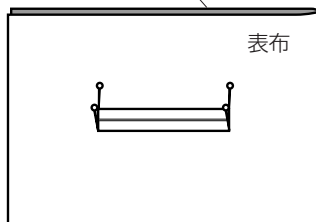


⑨ 三角の布に三重にぬいをします。

⑩ たまぶち布を穴から 1.0 ~ 1.5cm にたちおとします。角は丸くたちおとします。

⑪

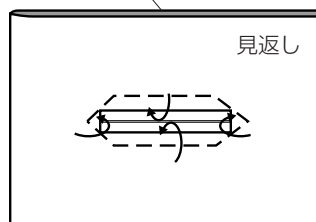
見返し



⑫

表布

見返し

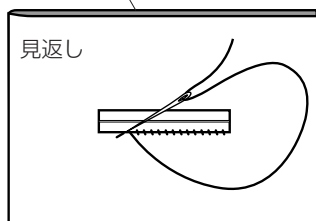


⑪ 見返しに、たまぶち穴の形のしるしを付けます。

⑫ 見返しの表から手順③のように Y 字型に切り込みを入れて、できあがりの幅に折り、切り込まれた布を見返しとたまぶち布のあいだに折り込みます。

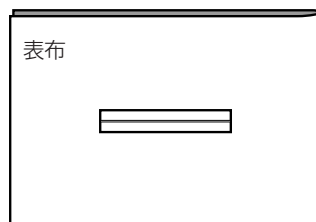
⑬

表布



⑭

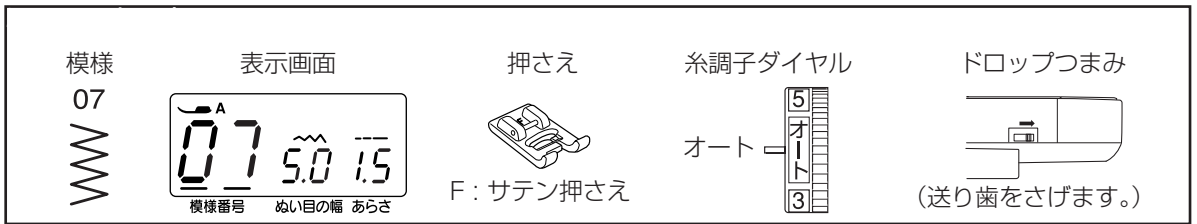
表布



⑬ 細かくまつります。

⑭ 完成です。

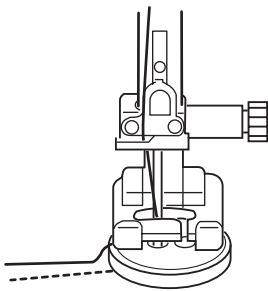
●ボタン付け



【準備】

- (1) 送り歯をさげます。
- (2) ぬい目の幅をボタン穴の間かくに合わせて、調節します。

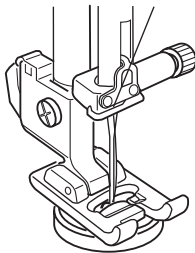
① ②



【ぬい】

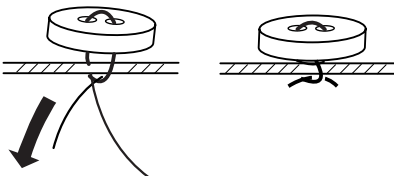
- ① はずみ車を手前にまわして針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。
 - ② ボタンの左右の穴が真横になるようにして押さえ上げをさげます。
- ※ ボタンが押さえで固定されていることを確認します。不安定だとボタンがずれて針折れる危険があります。

③ ④ ⑤



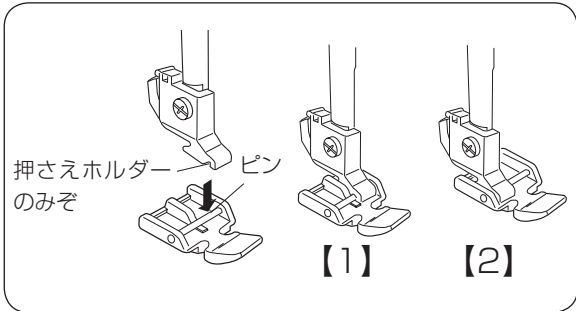
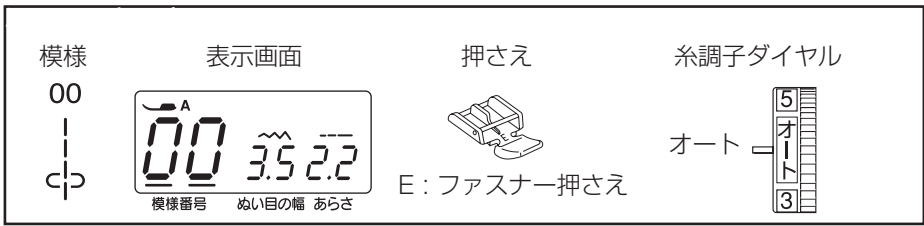
- ③ はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。
 - ④ スピードコントロールつまみを (ゆっくり) にセットします。
 - ⑤ 10針くらいぬったらミシンを止めます。
- ※ ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

⑥



- ⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を 10cm くらい残して切ります。ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
- ※ ぬい終わったらドロップつまみを送り歯をあげる位置に戻し、手ではずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認します。

●ファスナー付け



【ファスナー押さえの付け方】

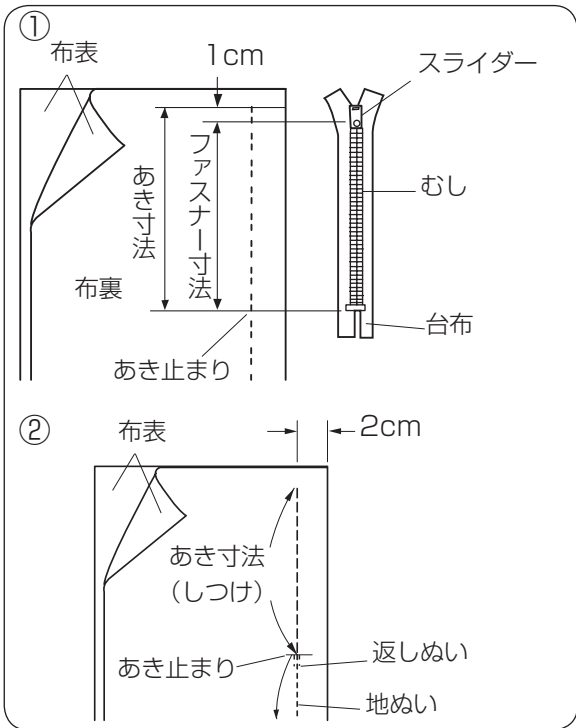
左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。

右側をぬうときは、左側にセットします。

- 【1】 左側をぬうとき
- 【2】 右側をぬうとき

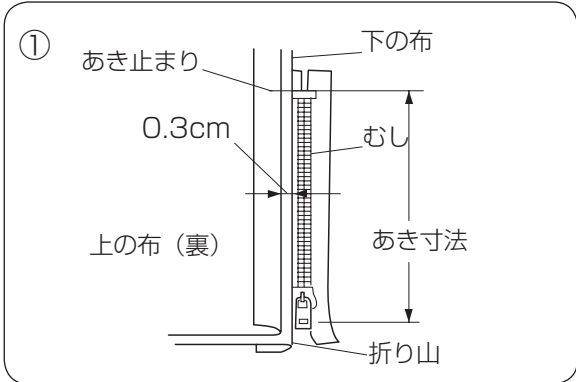
【準備】

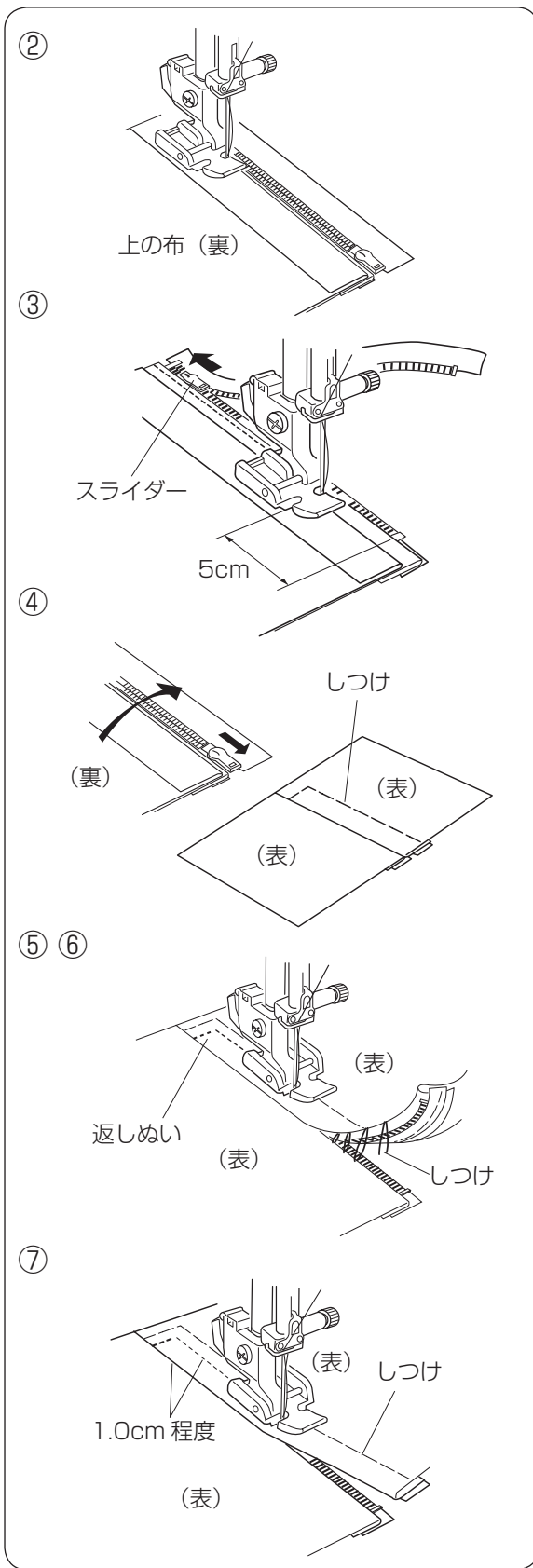
- ① ファスナーのあき寸法を確認めます。
あき寸法はファスナー寸法に 1cm プラスした寸法です。
 - ② しつけと地ぬいをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
地ぬいの部分は、A: 基本押さえを使ってぬいます。
あき部分は、ぬい目のあかさ 5.0 でしつけぬいをします。
- ※ しつけは、ほどこきやすいように糸調子ダイヤルを「1」くらいにしてぬいます。
しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」に戻します。



【ぬい】

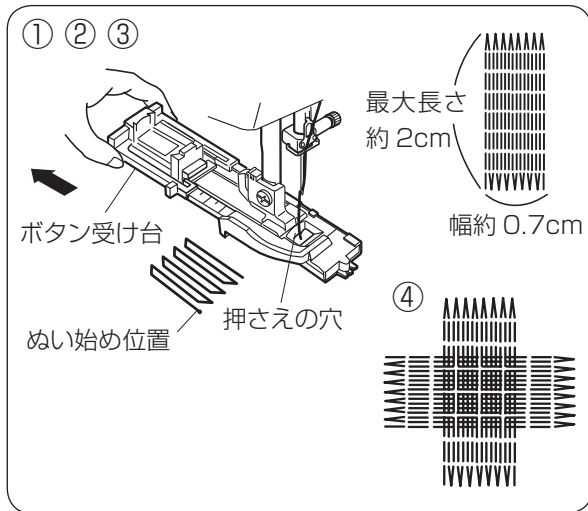
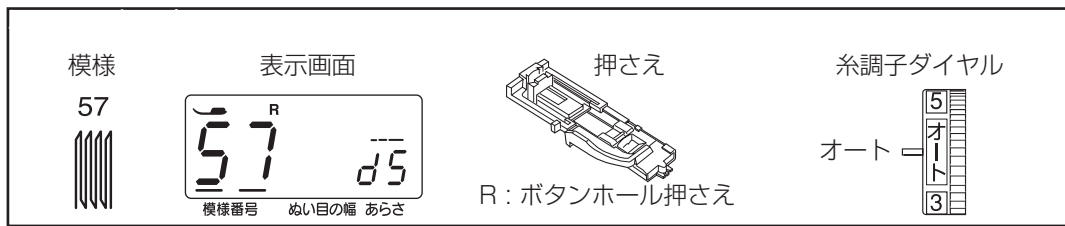
- ① ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを 0.3cm 出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。





- ② 押さえホルダーを押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。
 ※ めい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。
- ③ ファスナーの端から 5cm 手前でミシンを止め、針を布にさします。
 押さえ上げをあげてスライダを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。
 ※ めい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。
- ④ ファスナーをとじ、スライダを上にも倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。
 かぶせた布と台布をしつけで止めます。
 ※ しつけは A 基本押さえを使用します。
 しつけはほどこきやすいように、ぬい目のあらかさを 5.0、糸調子ダイヤルを「1」にしてぬいます。
 しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」に戻します。
- ⑤ 押さえホルダーをファスナー押さえの左側にセットします。
 上の布のあき止まりを返しぬいし、むしのきわに押さえの端をあててぬいます。
- ⑥ ファスナーの上側を 5cm くらい残したところで止め、針をさげ押さえ上げをあげて、【準備】の手順②でぬったしつけ糸をほどこきます。
- ⑦ スライダを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。
 めい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどこきます。

●ダーニング (つくろいぬい)



- ① ボタン受け台をいっぱい引き出します。
- ② 上糸を押さへの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
- ③ ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげ自動的に止まるまでぬいます。
※ 1回のぬいで、最大長さ約 2cm、幅約 0.7cm までぬえます。
- ④ 布の向きをかえてくり返しぬいます。
※ 糸切り予約した場合は、糸を切って自動的に止まります。

【2cm より短い長さでぬう場合】

最初に必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押して、自動的に止まるまでぬいます。

【ダーニングの記憶】

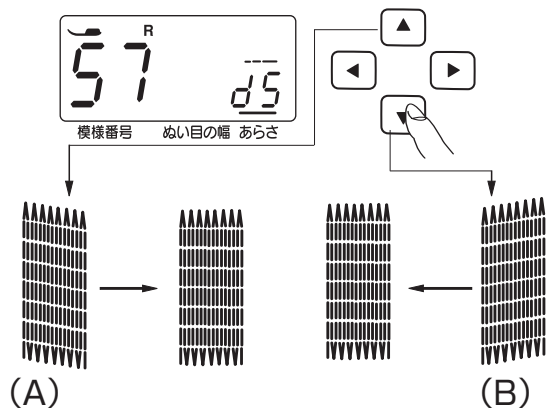
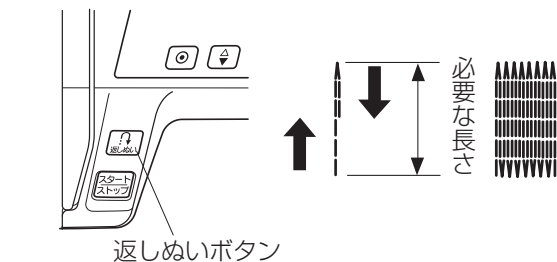
ミシンは一度ぬったダーニングの長さを記憶しています。

別の箇所にぬうと、くり返し同じ長さのダーニングがぬえます。

※ 長さを変更してぬう場合は、あらためて模様を選び直します。

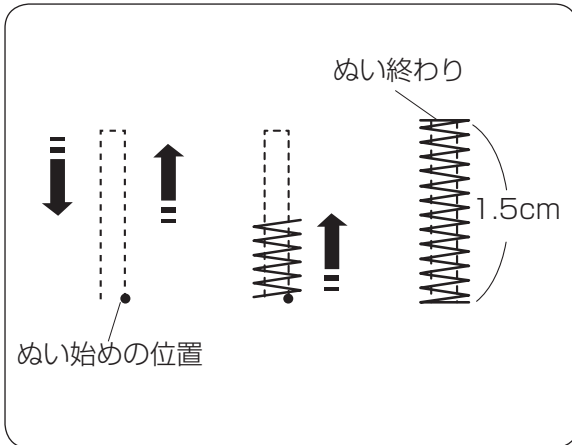
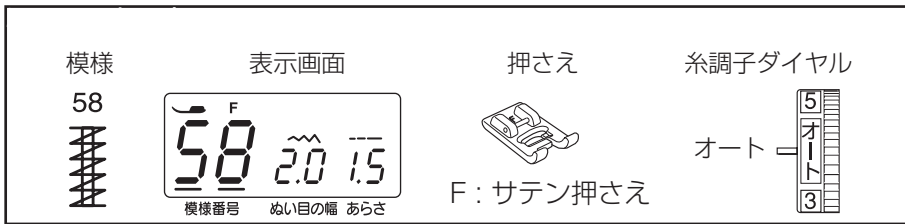
【ダーニングの形の整え方】

ダーニングのぬい始め（左側）と、ぬい終わり（右側）の高さがそろわないときは、カーソル移動ボタン ◀ ▶ でぬい目のあらさモードを選び「▲ボタン」または「▼ボタン」で調節します。



- (A) 右側が低いとき d6 ~ d9 で左右の高さがそろいます。
- (B) 左側が低いとき d1 ~ d4 で左右の高さがそろいます。

●かんぬき止めぬい

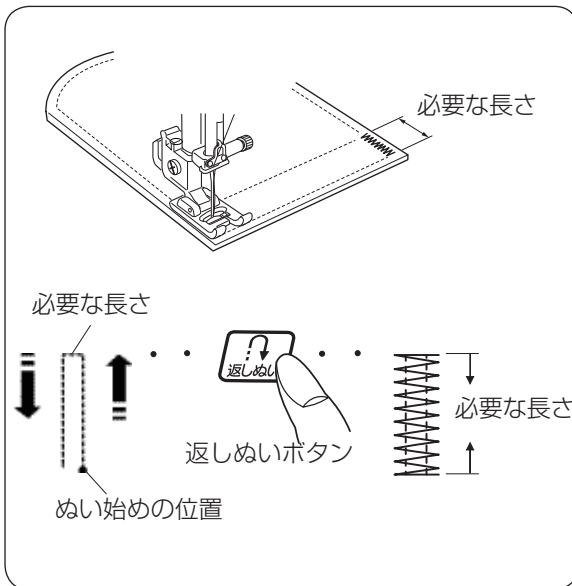


ぬい目に力がかかって、ほつれやすい部分などに使うと、ぬい目がしっかりします。

1回のぬいで長さ約1.5cmが自動的にぬえます。

※ ぬい目の幅は(1.0～5.0)、ぬい目のあさは(1.0～2.5)の間でかえられます。

※ 糸切り予約した場合は、糸を切って自動的に止まります。



【1.5cmより短い長さでぬう場合】

必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押して、自動的に止まるまでぬいます。



【かんぬきの記憶】

ミシンは一度ぬったかんぬき止めの長さを記憶しています。

別の箇所をぬうと、くり返し同じ長さのかんぬき止めがぬえます。

※ 長さを変更してぬう場合は、あらためて模様を選び直します。

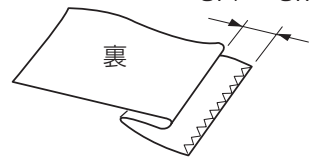
●まつりぬい

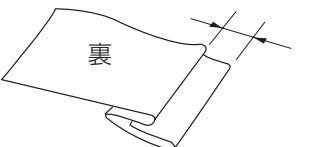
模様 13 14 	表示画面  模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ 	糸調子ダイヤル オート 
--	---	--	--

G: まつりぬい押さえ

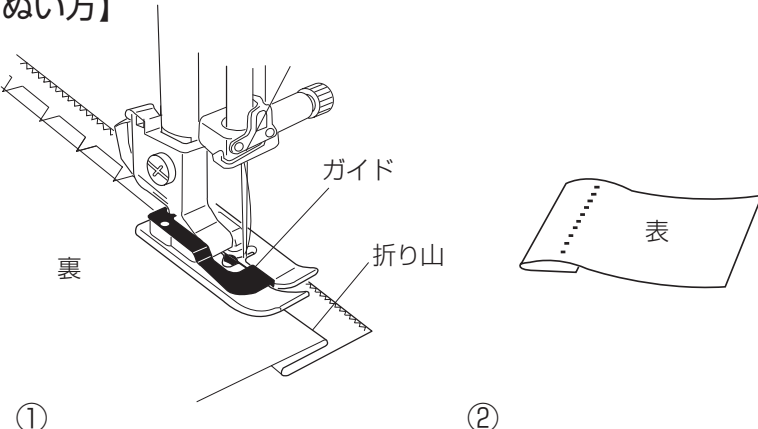
※ 模様 14 は伸縮性のある布に使用します。

【布の折り方】

厚い布の場合

0.4 ~ 0.7cm

うすい布、普通の布の場合

0.4 ~ 0.7cm

【ぬい方】



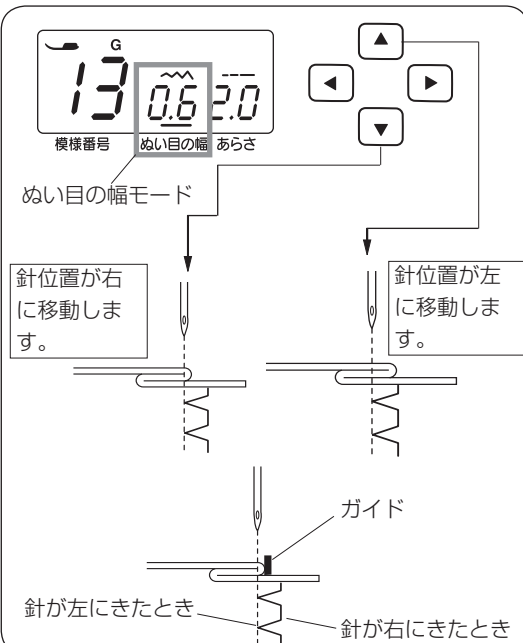
布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を0.4 ~ 0.7cmほどはみ出させます。

① ガイドに折り山を合わせ、針が折り山から外れないように針位置を調節してぬいます。

② ぬい終わったら布を表に戻します。

※ 左側におりる針が必要以上に折り山にかかりすぎると表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりにませんので注意してください。

【針位置の調節】



◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は0.6です。

※ 表示0.6はガイドから針位置が左にきたときの幅を示します。


※ 模様13,14は、ぬい目の幅は変化せず模様（針位置）が左右に移動します。

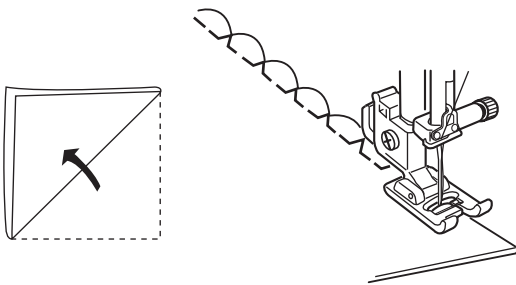
針が折り山にかからない場合「▲ ボタン」を押して針位置を左に移動させます。

針が折り山にかかりすぎる場合「▼ ボタン」を押して針位置を右に移動させます。

◎応用ぬい

●シェルタック

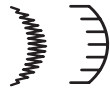


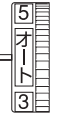
模様 15 	表示画面  模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル 6~8 
---	---	---	---



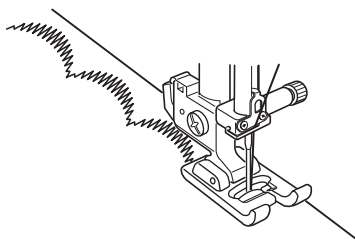
布をバイヤスに二つ折りにします。
針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるよう
にしてぬいます。
布を開き、アイロンで山を片側に倒します。

※ 糸調子は試しぬいをしてシェルタックの山が
きれいになるように調節します。

●スカラップ

模様 20 41 	表示画面  模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 
--	---	---	---

①



① 布の表から、布端を1cmくらい残してぬい
ます。

②

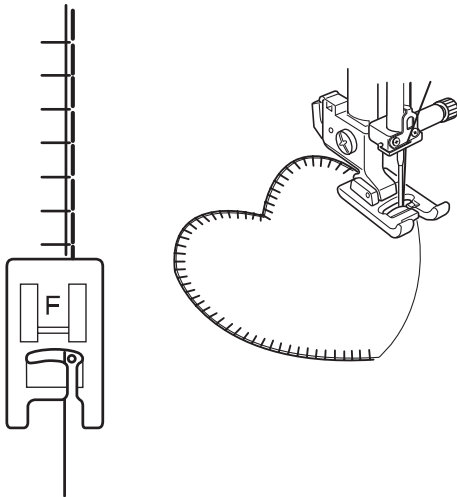


② 糸を切らないように、外側の布を切り落と
します。

●アップリケ

<p>模様</p> <p>17 18 19</p>	<p>表示画面</p>	<p>押さえ</p> <p>F: サテン押さえ</p>	<p>糸調子ダイヤル</p> <p>オート</p>
---------------------------	-------------	-----------------------------	---------------------------

※ 模様 17 は、中針位置 (M) を移動せずに、ぬい目の幅がかわられます。
 模様 18 は、中針位置 (L) を移動せずに、ぬい目の幅がかわられます。
 模様 19 は、右針位置 (R) を移動せずに、ぬい目の幅がかわられます。



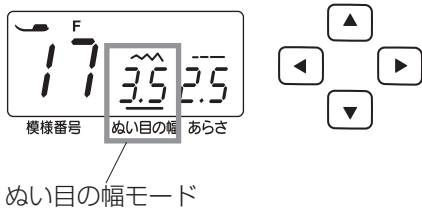
アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。

針をアップリケ布の外側に落とし、アップリケ布のふちをぬっていきます。

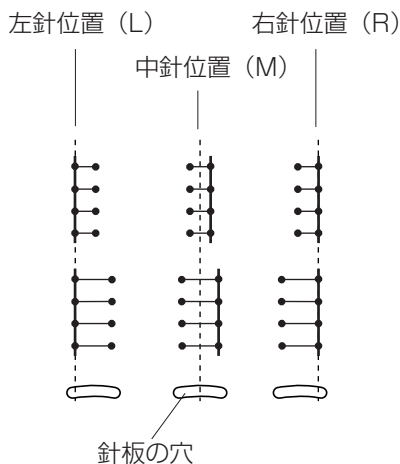
※ カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を下位置にします。

押さえ上げをあげ、針を布にさしたままで方向をかえます。

【ぬい目の幅をかえるとき】



◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。


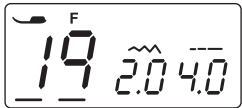




17
 模様 の M は、中針位置を基準 (固定) にぬい目の幅が変化します。

18
 模様 の L は、左針位置を基準 (固定) にぬい目の幅が変化します。

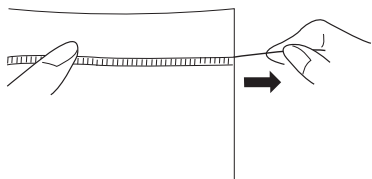
19
 模様 の R は、右針位置を基準 (固定) にぬい目の幅が変化します。

● フリンジぬい

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
17 19 	 <small>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</small>	 F : サテン押さえ	 オート

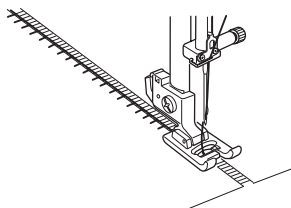
※ ぬい目の幅の変更は、45 ページをごらんください。

①



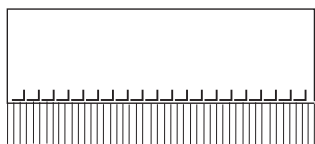
① フリンジのたばになる部分の織り糸を1～2本抜き取ります。

②



② 織り糸を抜いた上をぬいます。

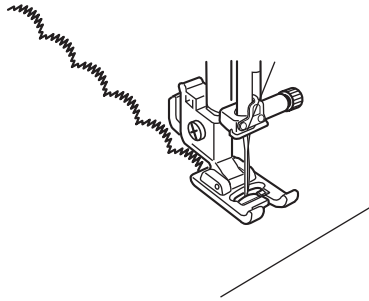
③



③ フリンジにする部分の織り糸全部を抜き、ふさを作ります。

●サテン模様ぬい

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
20 21 22 23 24 25 	<p>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</p>	<p>F: サテン押さえ</p>	糸調子ダイヤル オート

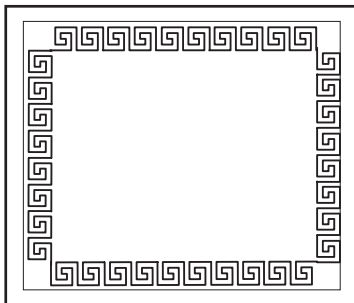


布が縮むときは下に紙を敷くか、または、芯地を貼るときれいに仕上がります。

※ 必要な模様数の最後のぬい途中で止めぬいボタンを押すと、その模様をぬって自動的に止まります。

●飾りぬい

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
10 16 26 27 28 29 	<p>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</p>	<p>F: サテン押さえ</p>	糸調子ダイヤル オート
45 46 47 48 49 			

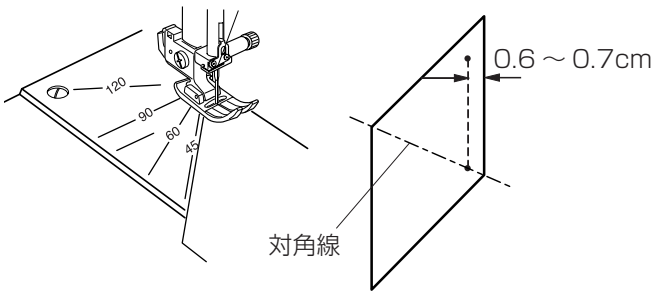


テーブルクロスなどの飾りぬいとして利用します。

布が前後する模様もありますので、ぬい目が曲がらないように、手で案内しながらぬいます。

●パッチワーク

★針板角度目盛りの利用



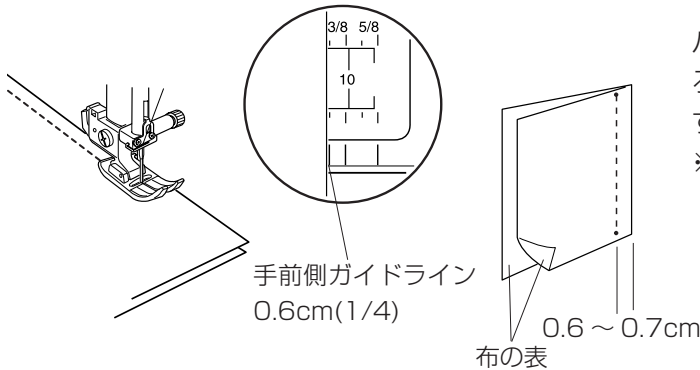
パッチワーク布片の形状により、針板の角度目盛りに布端を合わせると印なしで0.6～0.7cmの位置にぬえます。

【例】ベビーブロックス

- ① ピースの対角線に折り目を付けます。
- ② ぬい始めは、布端を角度目盛りに合わせて布を置きます。
- ③ ぬい終わりは、対角線までぬって止めます。

★地ぬい

模様 30 P C	表示画面 模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート
--------------------	----------------------------	----------------------	--------------------

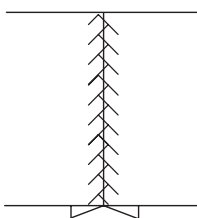


パッチワーク布片を中表に合わせぬいしろを0.6～0.7cmとり、はぎ合わせます。

※ 布端は針板の手前側ガイドライン0.6cm (1/4) に合わせてぬいます。

★パッチワーク

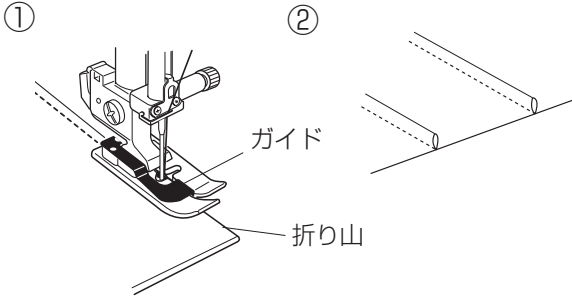
模様 33 34 35 36 37 	表示画面 模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート
--------------------------	----------------------------	----------------------	--------------------



布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●ピンタック

模様 01 	表示画面 	押さえ G: まつりぬい押さえ	糸調子ダイヤル オート
--------------	----------	------------------------	----------------

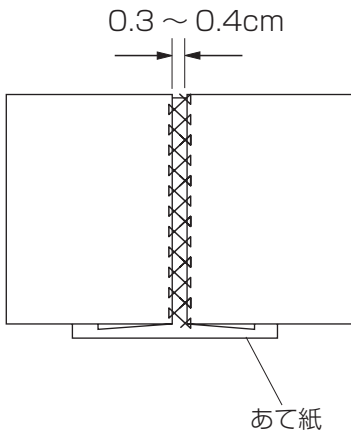


①布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

②ぬい終わったら片返しにして、アイロンをかけ、整えます。

●ファゴティング

模様 40 43 44 	表示画面 	押さえ F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート
--------------------	----------	----------------------	----------------






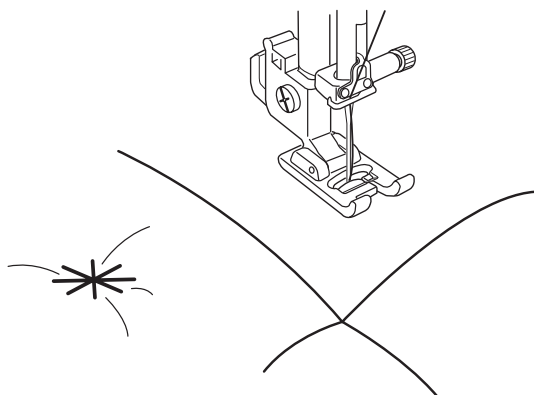
布端と布端の間かくを0.3～0.4cmあけて、下にあて紙をします。

布の表から間かくの中央を中心にしてぬいます。

最後にあて紙をとります。

● ワンポイント（とじぬい）





模様 49 ✳ ✳	表示画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 
--------------------	---	---	---

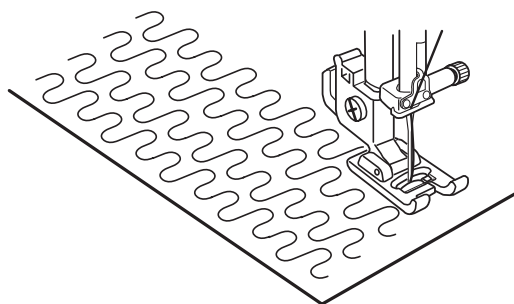


厚みのあるキルト綿をとじるときに使用します。

- ① 模様を1つだけぬうために、模様番号49を選んだら、止めぬいボタンを押します。（模様49をぬっている途中で止めぬいボタンを押してかまいません。）
- ② ミシンをスタートします。模様を1つぬって自動的に止まります。

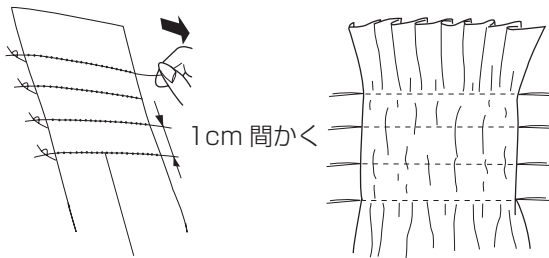
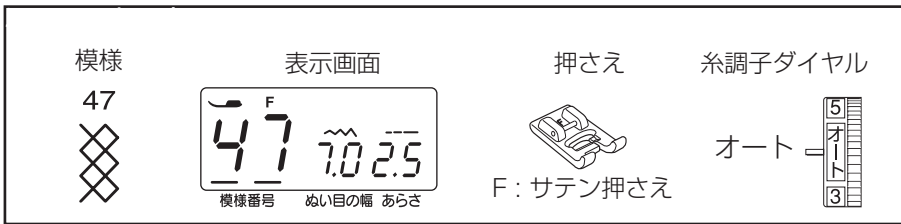
● ステッピングステッチ

模様 38 39 42 	表示画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	---	---

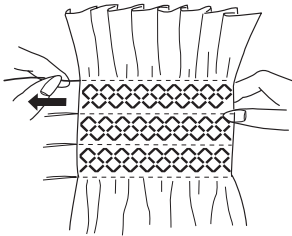


表布と裏布のあいだに綿を入れ、表に模様をうめていきます。

● スモッキング



直線めい



【直線めい】

糸調子ダイヤルを「0」～「1」にして、めい目のあらかが「3.0」～「4.0」の直線を1cm間かくで数本めいます。

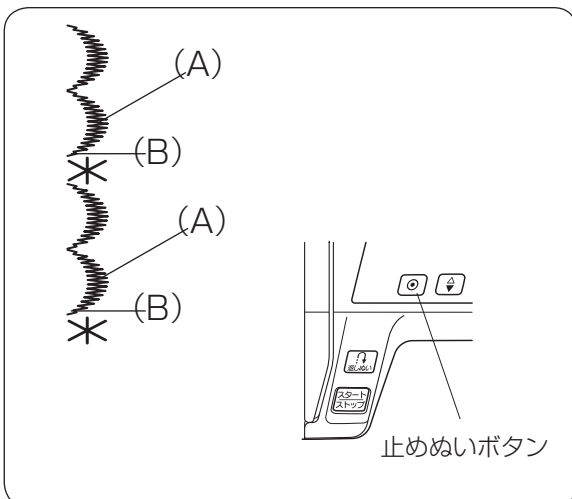
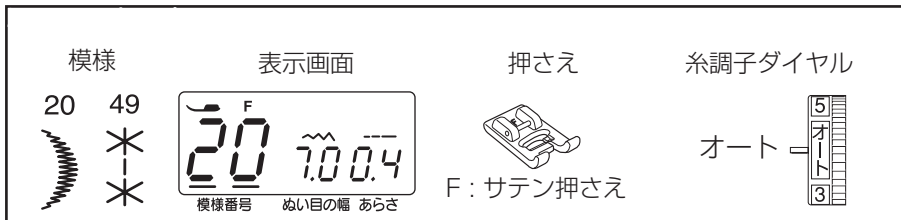
上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

めいが終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」にもどします。

【模様めい】

上記の直線めいを数本めったあと、直線めいと模様めいのあいだに模様めいをしてから、直線めいの上糸と下糸を抜きとります。





● 止めめいボタンを使った飾りめい

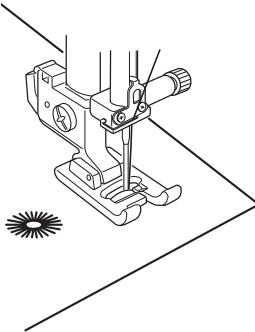


例. 模様 20 (2 個) と模様 49 (1 個) の組み合わせ


- ① 模様 20 を選び、2 個目の途中 (A) で止めめいボタンを押します。
(ぬっている途中で押してもかまいません。)
模様を完成させたあと、止めめいをして自動的に止まります。
- ② 模様 49 を選びます。
- ③ めいの前 (B) に止めめいボタンを押します。
- ④ 模様 49 を 1 つぬって、自動的に止まります。
- ⑤ 模様 20 を選び、手順①からをくり返します。


● アイレット

模様 59 	表示画面  模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	---	--







ぬい目のあらかさモード

① すきま → 

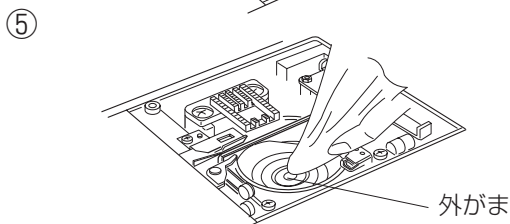
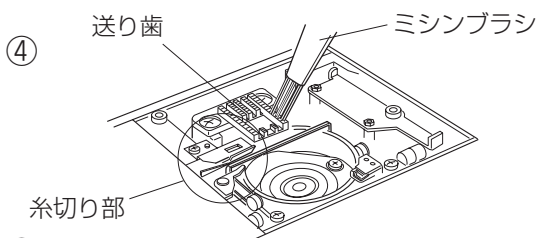
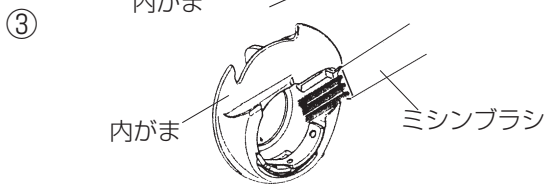
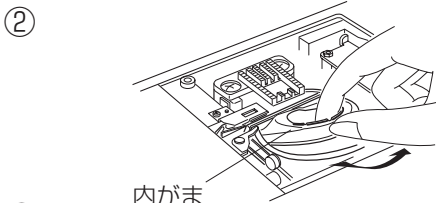
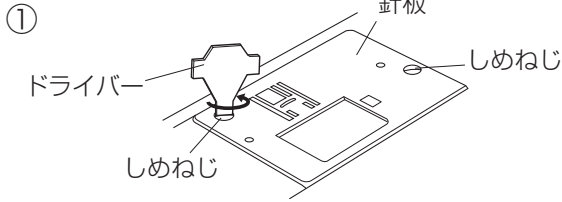
② 重なり → 

ぬう位置を決め、自動的に止まるまでぬいます。
 ※ ぬい目の内側をポンチ（市販品）などで穴を開けます。
 ポンチの大きさは直径 0.25cm 以下のものをご使用ください。
 ※ 糸切り予約をした場合は、糸を切って自動的に止まります。

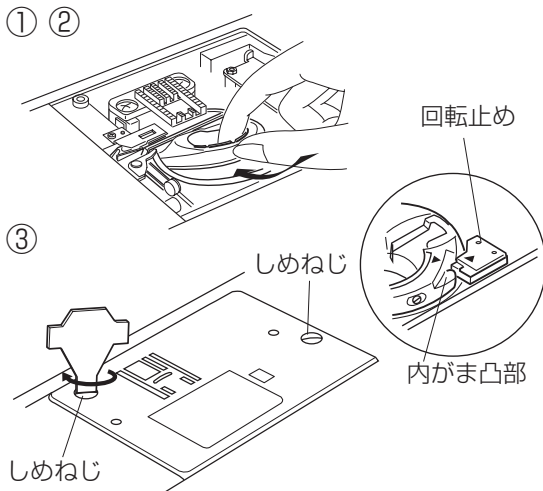
【アイレット形状の調節】
  ボタンで、ぬい目のあらかさモードを選びます。
  ボタンで形状調節をします。
 初期値（購入時のセット状態）は L3 です。
 ① ぬい目にすきまがあるときは、L1 ～ L2 にします。
 ② ぬい目に重なりがあるときには、L4 ～ L5 に調節します。

◎ミシンのお手入れ

●かまと送り歯の掃除



●内がまと針板の組み付け



⚠ 注意



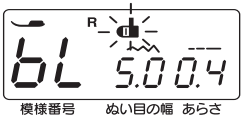

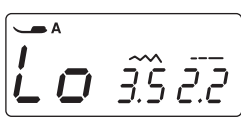

- お手入れのときには、必ず電源スイッチを切って、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- お手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。

けが、感電の原因になります。

- ※ 針と押さえホルダーを外します。
- ※ ボビンを取り出します。
- ① しめねじ 2 個を外し、針板を外します。
- ② 内がまの手前を上へ引きながら外します。
- ③ 内がまを、ミシンブラシなどで掃除し布切れで軽くふきます。
- ④ 送り歯のごみを、ミシンブラシなどで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
- ※ 糸切り部のごみもミシンブラシで落としてください。
- ⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
- ※ 掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸い取ってください。

◎こんな表示が出た場合

●表示画面の対処方法

表 示	対 処 方 法
	<p>フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップボタンを押したときに、フットコントローラー表示が点滅します。</p> <p>スタート/ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラーの接続を外してください。</p>
	<p>押さえ上げをさげないで、スタート/ストップボタン（返しぬいボタン、糸切りボタン、フットコントローラー）を押したときは、押さえ表示が点滅します。</p> <p>押さえ上げをさげて、スタート/ストップボタンを押します。</p>
	<p>ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホールを 0.5cm ぬうと、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅します。</p> <p>ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。</p>
	<p>糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示されます。</p> <p>糸巻き軸をもとの位置に戻すまで表示されます。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 安全装置の作動により、ミシンモータが緊急停止したときと、その後 15 秒間のあいだに再スタートしようとする则表示されます。この時間はミシンの操作ができませんのでしばらくおまちください。 糸巻き中に糸がらみなどで糸巻き軸がロックされると表示されます。電源を切り不要な糸を取り除いてください。
	<p>ミシンが正しく作動しなかった場合に表示されます。</p> <p>電源を切り、針板を外し、かまや送り歯、糸切りメスに糸がからんでいないか確認します。</p> <p>直らない場合には、電源を切り、お買い上げの販売店へご連絡ください。</p>

●ブザー音の種類

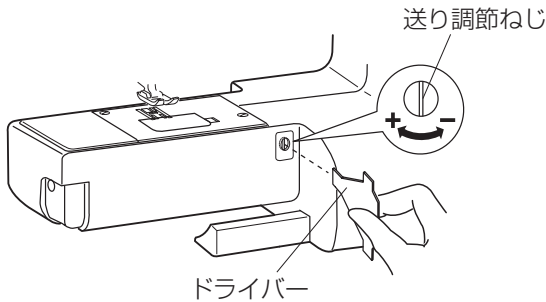
ブザー音	内 容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了等の終了音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

◎ミシンの調子が悪いときの直し方

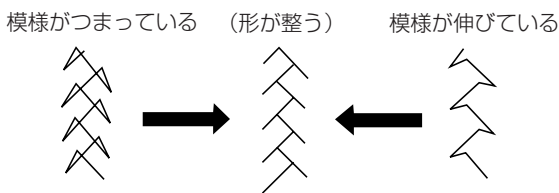
調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。糸調子皿から上糸がはずれている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. むい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. むい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。 	<p>17 ページ参照</p> <p>12 ページ参照</p> <p>13 ページ参照</p> <p>13 ページ参照</p> <p>21 ページ参照</p> <p>22 ページ参照</p> <p>13 ページ参照</p>
下糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4. 下糸がゆるく巻かれている。 	<p>16 ページ参照</p> <p>52 ページ参照</p> <p>ボビンを交換する。</p> <p>15 ページ参照</p>
針がおれる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. むい終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 5. 模様にあった押さえを使用していない。 	<p>13 ページ参照</p> <p>13 ページ参照</p> <p>22 ページ参照</p> <p>13 ページ参照</p> <p>押さえを交換する。</p>
むい目がとぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャンメブルー針（オプション）を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。 	<p>13 ページ参照</p> <p>13 ページ参照</p> <p>13 ページ参照</p> <p>17 ページ参照</p> <p>針を交換する。</p>
むい目がしわになる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布に対して針が太すぎる 	<p>12 ページ参照</p> <p>16、17 ページ参照</p> <p>13 ページ参照</p>
布送りがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送り歯に糸くすがたまっている。 2. むい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。 	<p>52 ページ参照</p> <p>むい目をあらくする。</p> <p>10 ページ参照</p>
むい目に輪ができる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。 	<p>12 ページ参照</p> <p>13 ページ参照</p>
糸切りボタンでうまく糸が切れない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 使用している糸が太すぎる。 2. 糸がからまっている。 	<p>9 ページ参照</p> <p>9、52 ページ参照</p>

調子が悪い場合	その原因	直し方
ボタンホールがうまくいかない	1. ボタンホール切りかえレバーをさげていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	30 ページ参照 29 ページ参照
ミシンがまわらない	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。 (糸巻状態になっている) 4. フットコントローラーを接続したままでスタート/ストップボタンを押している。	6 ページ参照 52 ページ参照 15 ページ参照 6 ページ参照
音が高い	1. かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。	52 ページ参照 52 ページ参照
模様がくずれる	1. 模様が正しく調整されていない。	模様の形の整え方を参照

【模様の形の整え方】



布の種類などによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調節してください。(補助テーブルを外します。)



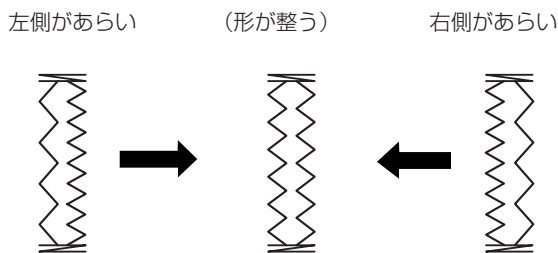
例【模様 ³⁴ のとき】

(形が整う)

模様がつまっているとき.....送り調節ねじを「+」の方向にまわします。

(形が整う)

模様が伸びているとき.....送り調節ねじを「-」の方向にまわします。



例【ニットボタンホール ^{53 54} のとき】

(形が整う)

左側があらいとき.....送り調節ねじを「+」の方向にまわします。

(形が整う)

右側があらいとき.....送り調節ねじを「-」の方向にまわします。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合は費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申し付けください。

株式会社ジャノメ

〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
お客様相談室 TEL. 0120-026-557 (フリーダイヤル)
042-661-2600

受付 平日 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <http://www.janome.co.jp>
間合わせフォームをご利用ください。

仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	35W
外形寸法	幅 40.6cm × 奥行 18.4cm × 高さ 29.8cm
質 量	5.6kg (本体)
使用針	家庭用 HA X 1
最高ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時 毎分 820 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

